

国営備北丘陵公園管理運営ビジョン

自然や文化を思いっきり楽しみ、地域と共に元気を生み出す公園



令和7年6月

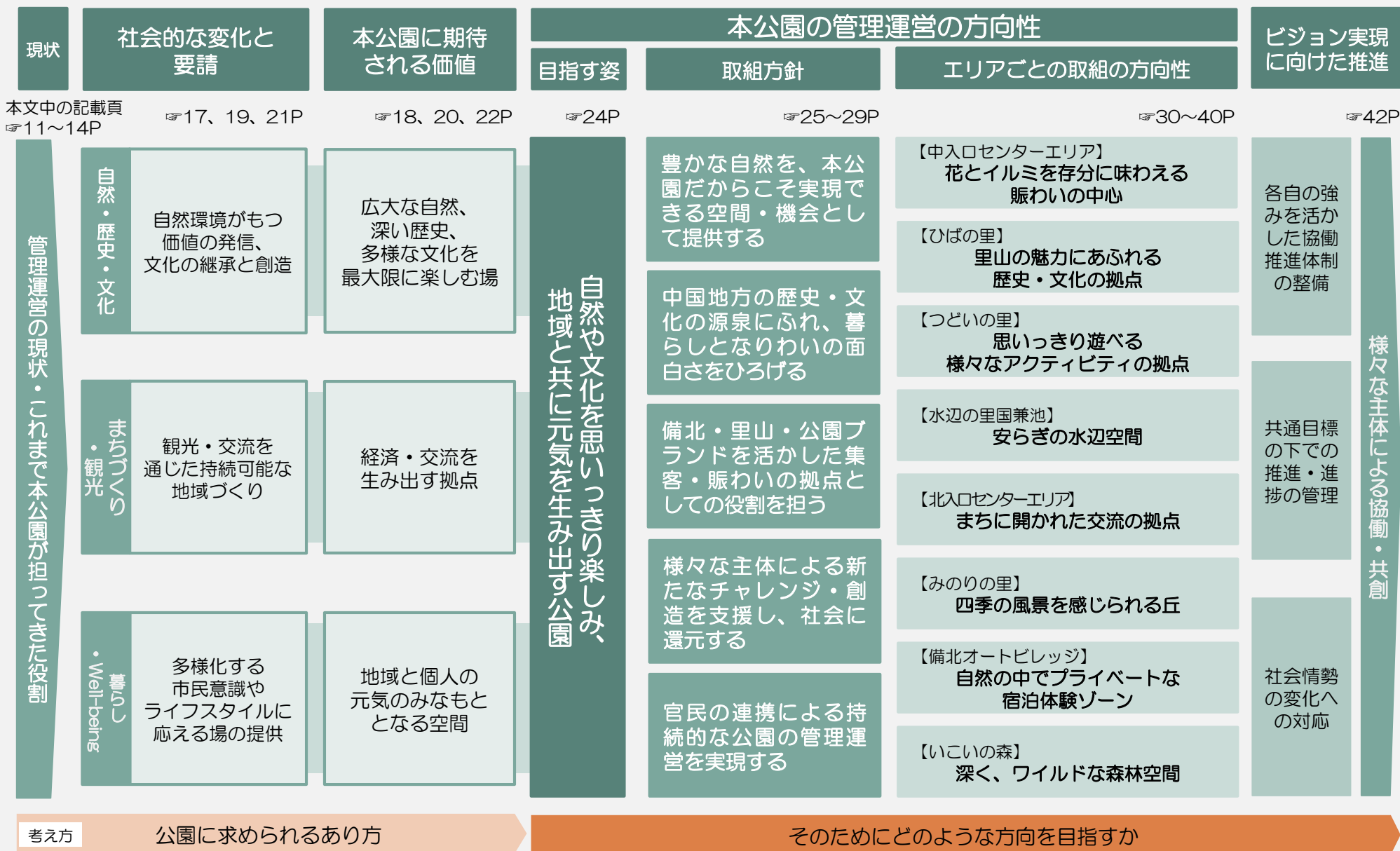
国土交通省 中国地方整備局

本図は備北丘陵公園を北側から眺めたイメージパースです。

目次

【本編】	
管理運営ビジョンの全体像	3
第1 管理運営ビジョンとは	4
1. 管理運営ビジョン策定の背景・目的	5
2. 管理運営ビジョンの位置づけ	6
第2 本公園の概要と構成	7
1. 本公園の概要	8
2. 本公園の構成	9
第3 本公園の現状	10
1. 本公園の入園者数の推移	11
2. 本公園の利用状況	12
3. 本公園の管理運営の現状	13
4. 本公園の担ってきた役割	14
第4 社会的な変化・要請と本公園に期待される価値	15
1. 本公園に期待される価値の全体像	16
2. 自然・歴史・文化	
社会的な変化と要請 ①	17
本公園に期待される価値 ①	18
3. まちづくり・観光	
社会的な変化と要請 ②	19
本公園に期待される価値 ②	20
4. 暮らし・Well-being	
社会的な変化と要請 ③	21
本公園に期待される価値 ③	22
第5 本公園の管理運営の方向性	23
1. 本公園の目指す姿	24
2. 目指す姿の実現に向けた取組	25
3. エリアごとの取組の方向性	30
4. エリア間の連携の方向性	39
5. 地域との連携の方向性	40
第6 管理運営ビジョンの推進方法	41
1. 管理運営ビジョンの推進へ向けて	42
【資料編】	43

管理運営ビジョンの全体像



第1 管理運営ビジョンとは



1. 管理運営ビジョン策定の背景・目的
2. 管理運営ビジョンの位置づけ

1. 管理運営ビジョン策定の背景・目的

■ 公園整備からこれまで

- 国営備北丘陵公園（以下「本公園」という）は、中国地方のほぼ中央、広島県庄原市に位置する中国地方初の国営公園であり、平成7年に第一期開園、平成24年に全面開園し、現在までにのべ1,200万人を超える入園者を迎えています。
- 開園以降、広大かつ自然あふれるロケーションを背景に、大型複合遊具の設置や大規模な花修景の展開、オートキャンプ場をはじめとする多様なアクティビティの場や中国地方の伝統文化とのふれあいの機会などを提供するとともに、地域防災力の向上・健康福祉の増進などにも寄与してきました。一方で、開園から約30年が経過し、公園施設の老朽化や、社会の変化への対応が課題となっています。

■ 社会の変化の中で求められる管理運営のあり方

- これらの課題を踏まえると、今後の本公園の管理運営にあたっては、限られた予算の中で公園施設の機能を効率的に向上させるなど、国営公園としての広域的な利用に持続可能な形で対応するとともに、社会の変化を捉えながら、地域活性化など本公園に求められる役割に適切に対応することが必要です。そのためには、民間事業者のノウハウを積極的に活用した柔軟な管理運営手法の導入や、質の高い公園サービスの提供も重要です。

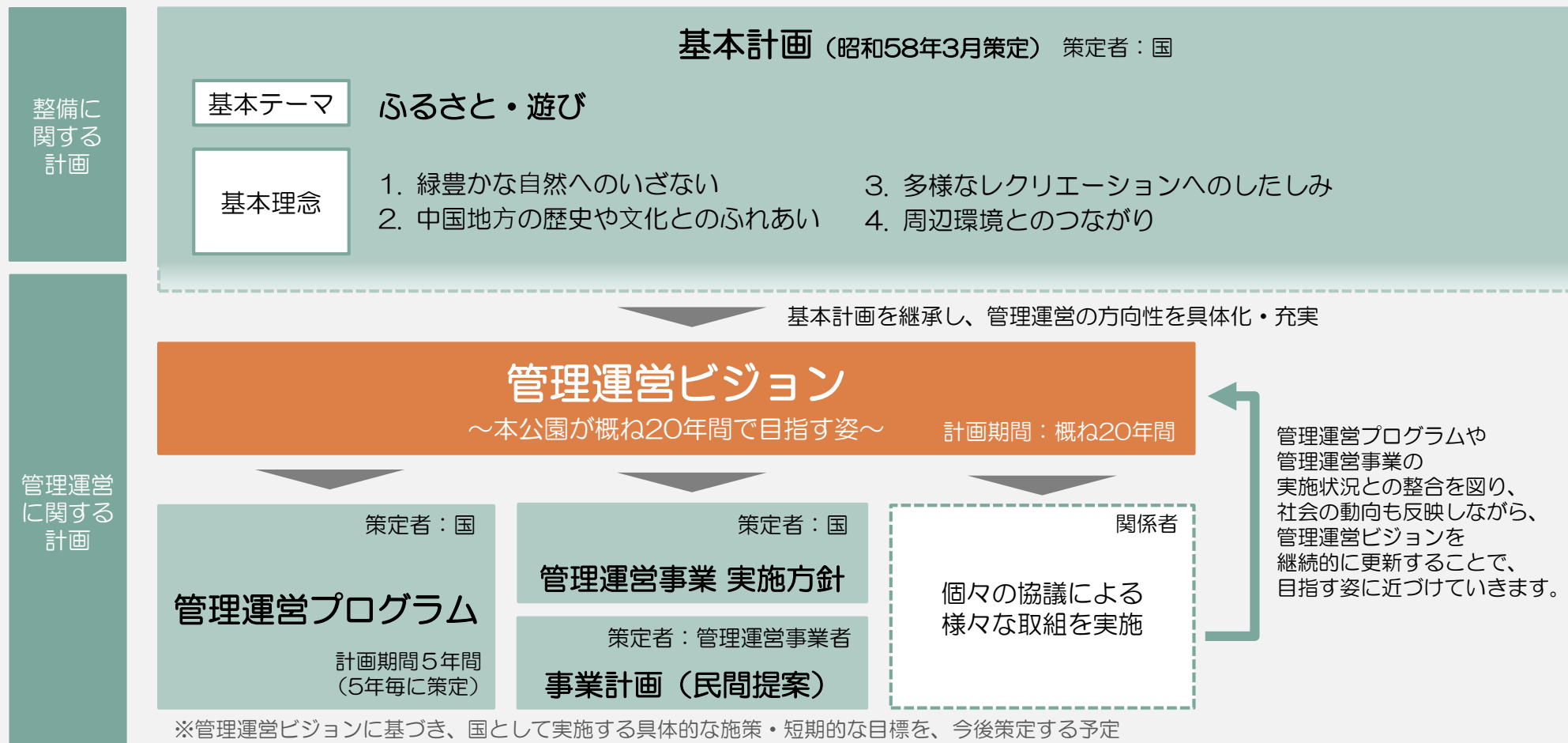
■ 管理運営ビジョンの策定の目的

- こうした管理運営を実現するためには、公園管理者、管理運営に関わる民間事業者、地域の関係者などの様々な主体がより一層の連携のもと、共に歩みながら取組を進める必要があります。
- 「国営備北丘陵公園管理運営ビジョン」（以下「管理運営ビジョン」という）は、本公園の管理運営計画の根幹として、今後の概ね20年間に渡って本公園が目指す姿を定める中長期的指針として、様々な主体が共有し、管理運営を行うことを目的に策定するものです。

2. 管理運営ビジョンの位置づけ

- 管理運営ビジョンは、本公園の今後の概ね20年間の管理運営の方向性を定めるものであり、今後の管理運営に関する各種計画、取組における共通の指針として策定するものです。

[管理運営ビジョンの位置づけ]



第2 本公園の概要と構成



1. 本公園の概要
2. 本公園の構成

1. 本公園の概要

- 本公園は、中国地方の中央に位置する備北地域の庄原市につくられた、国兼池とアカマツ林の丘陵地にかこまれた国営公園であり、中国地方全体の需要への対応を目指し設置されました。

名称	国営備北丘陵公園	事業着手年度	昭和57年度
種別	イ号国営公園 (都市公園法第2条第1項第2号)	供用開始年度	平成7年度
		公園管理者	中国地方整備局
所在地	広島県庄原市三日市町4-10	敷地面積	約338.8ha

[本公園の位置]



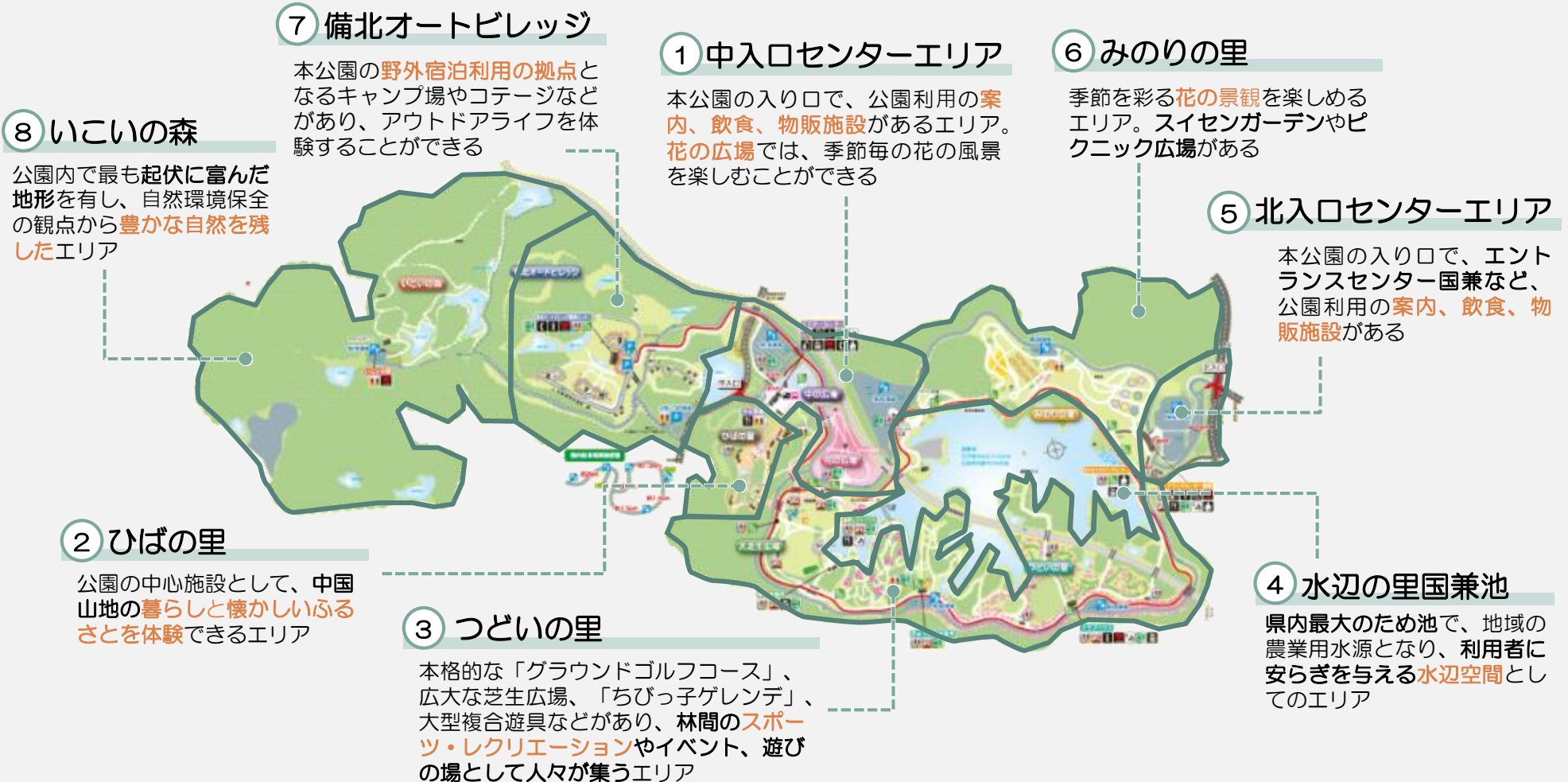
[季節毎の主な見どころ]

4月	5月	6月	7月	8月	9月
備北花ピクニック 	初夏の花物語 	備北夏まつり  		備北コスモスピクニック 	
10月	11月	12月	1月	2月	3月
備北コスモスピクニック 	備北イルミ  		冬咲きぼたん展 		備北花ピクニック 

2. 本公園の構成

➤ 本公園は、8つのエリアで構成されています。

[本公園を構成する8つのエリア]



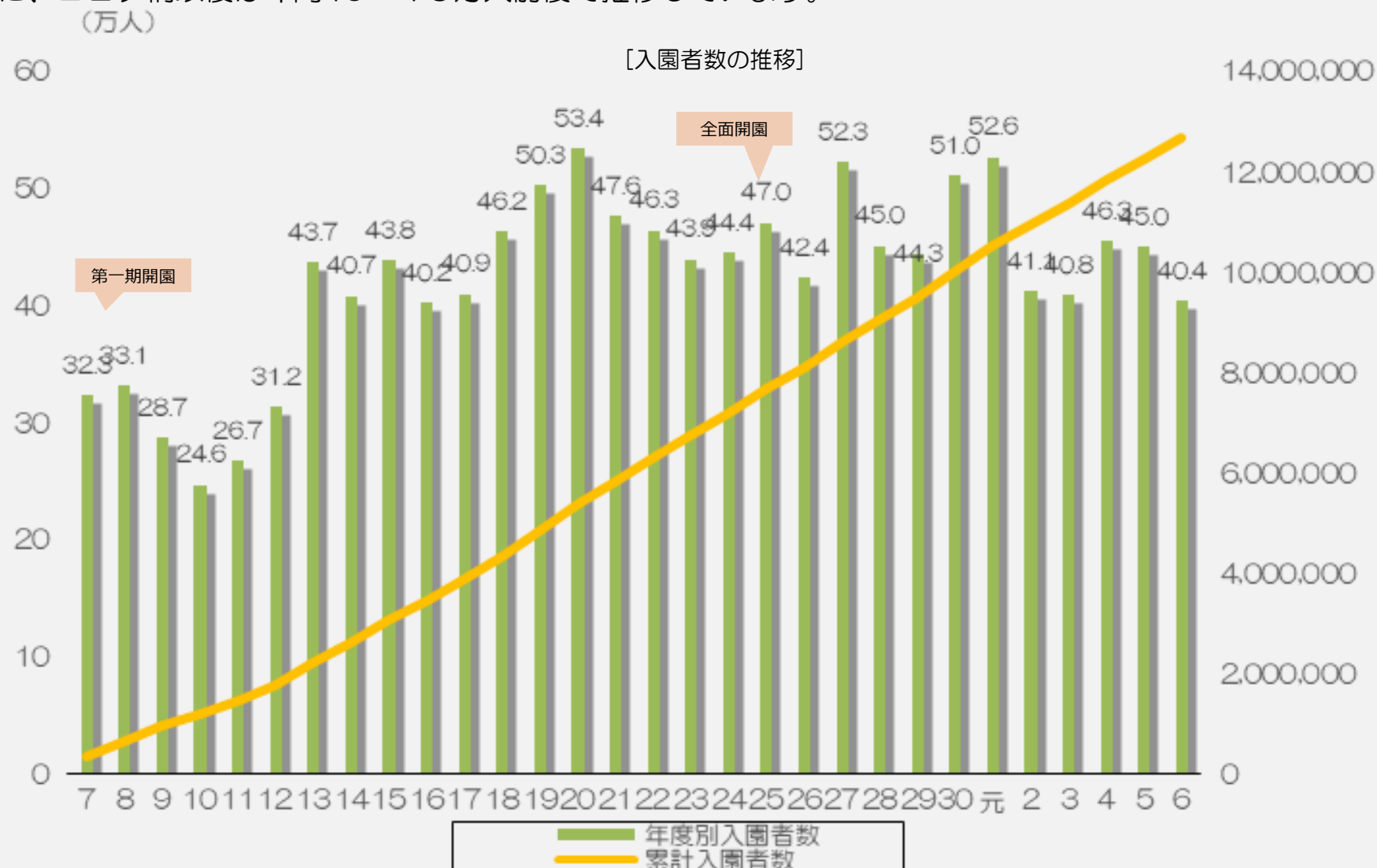
第3 本公園の現状



1. 本公園の入園者数の推移
2. 本公園の利用状況
3. 本公園の管理運営の現状
4. 本公園の担ってきた役割

1. 本公園の入園者数の推移

- 本公園の入園者数は、平成7年の第一期開園以降、概ね増加傾向を辿り、全面開園を迎えた平成20年代をピークに、コロナ禍以後は年間40～46万人前後で推移しています。

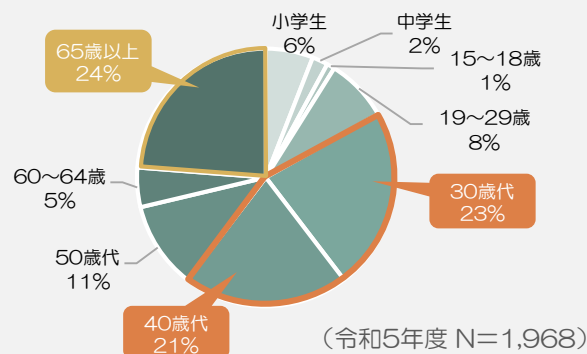


2. 本公園の利用状況

- 公園入園者の属性は、高齢者や子育て世代が大半を占めています。
- 公園の満足度については、施設・サービスの充実度や行き届いた管理運営などに高い評価を受ける一方で、園内の移動手段や園内案内などの移動の円滑化に対する課題もあげられています。

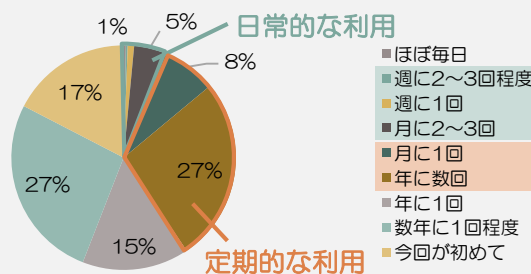
[年代別の入園者割合]

- 既存の入園者は65歳以上の高齢者層が最も多く、次いで30代・40代が続く



[来園頻度別の入園者割合]

- 入園者の約半数が日常・定期利用者である



[利用満足度と評価]

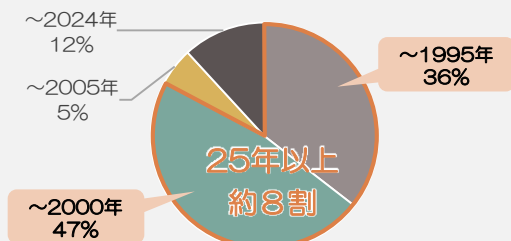
エリア	来園者満足度	主な評価
1 中入口センターエリア	95.8%	- 施設充実度 「遊具やドッグラン、花の広場、グランドゴルフ等、様々な施設が充実している」 「イベントや体験が催されており、子供も大人も楽しめる」 「日中は公園で遊び、夜はイルミネーションや花火と、一日中滞在して思い出が作れる」 - 施設管理・品質 「様々な工夫や行き届いた運営があり安心して利用できる」 「今後もこの料金で現在の通り行き届いた管理で公園を続けて欲しい」
2 ひばの里	95.1%	
3 つどいの里	95.6%	
4 水辺の里国兼池	96.6%	
5 北入口センターエリア	95.4%	
6 みのりの里	95.6%	
7 備北オートビレッジ	95.1%	
8 いこいの森	94.7%	
全体評価	95.4%	主な改善要望 - 園内移動 「公園が広くて園内の移動が大変」 「自転車で行けない施設がある」 「駐車場の位置が施設から遠くて不便」 「繁忙期の周遊バスやロードトレインを増発してほしい」 - 園内地図・誘導看板 「園内誘導看板が分かりにくく、自分達の位置が分からなくなる。施設間の移動所要時間を明示してほしい」

3. 本公園の管理運営の現状

- 本公園の管理運営にあたっては、施設の老朽化、新たな入園者層の獲得、園内消費の停滞などが課題となっており、今後これらに適切に対応していく必要があります。

施設の老朽化

[主要施設の経年状況]



[本公園内の施設劣化状況（供用中止）]



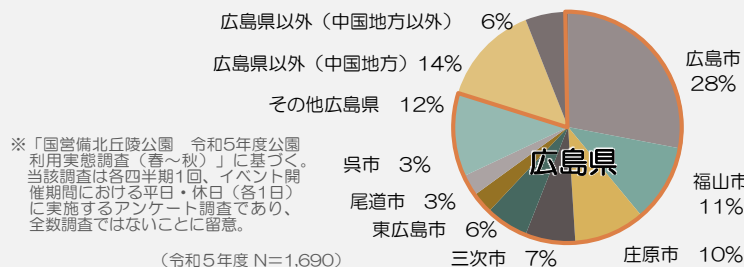
つどいの里 展望台

備北オートビレッジ
ウッドデッキ

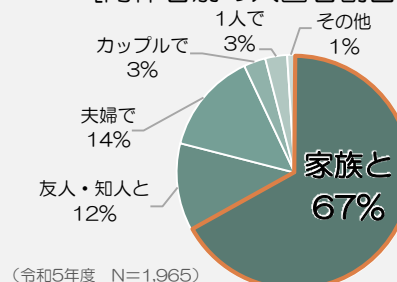
- 園内施設の8割以上が竣工から25年以上経過しており、今後、順次更新・修繕の必要がある。また、一部の施設は、腐朽などにより供用を中止している。

入園者属性の固定化

[入園者の居住地比率※]



[同伴者別の入園者割合]



- 年間入園者数（近年は40万人台で推移）のうち、大半が広島県内から来園している。また、家族との利用が大半を占めている。

園内消費の停滞

[本公園内における収益施設]

飲食 物販 機能	食堂「中の茶屋」
	レストラン「湖畔レストハウス」
	レストラン「レストハウス国兼」 ※現在は営業停止、サテライトラボ設置
	軽食コーナー「軽食きょうくん」
	売店「ランバス」 売店「はなちゃん」 ※現在は営業停止
宿泊 機能	備北オートビレッジ（キャンプ場）
	グランピング「湖畔ステイズ庄原」 ※民間事業者が自主事業として実施中

駐車場

第1～第5駐車場

その他

自動販売機	レンタサイクル
ルアーフィッシング	コインロッカー
ロードトレイン	※民間事業者が自主事業として実施中

[園内消費額（令和5年度）]

	広島県	本公園※
1人当たりの観光消費額	7,829円	362円

※入園料・収益施設売上高（自主事業収入を除く）を入園者数で除して算出
出典：「令和5年度広島県観光客数の動向（広島県）」

- 本公園は、飲食物販、駐車場、宿泊などの収益サービスを提供しているが、収益施設の収入は、平成25年度以降の年平均成長率が-1.1%に留まるなど、園内消費は停滞。また、一部の収益施設は営業を停止している。

4. 本公園の担ってきた役割

- 本公園は、開園当初より、花修景やレクリエーション、歴史・文化の体験の場など、様々な役割を担ってきました。近年では、健康増進、防災性の向上など、その役割も一層多様化しています。
- また、開園以降の様々な取組の蓄積が次なる展開につながっており、外国人初の刀鍛冶の活躍、近隣大学との連携など、新たな活動が生まれています。

[本公園の担ってきた役割の一例]

■自然環境の保全

- ・広島県最大のため池である国兼池を湛え、丘陵や森林など起伏に富んだ景観が残る
- ・次世代に残していくべき「生物多様性保全上重要な里地里山」として、国蝶オオムラサキの保全、中国地方の里山を象徴するササユリの群生復原、県立広島大学と連携した貴重植物ヒゴタイの保全、貴重植物エヒメアヤメの移植など、動植物の希少種の保全、生育場を提供
- ・共同研究や学生交流を活性化する目的として、本公園に近接する県立広島大学庄原キャンパスのサテライトラボを令和6年より設置



エヒメアヤメの保全

■歴史・文化の保全活用

- ・100年前の農村風景や里山の暮らしを再現したひばの里を整備し、里山文化を保存・継承
- ・中国地方に古くから伝わる「たたら製鉄」や稲刈り・わら細工体験、味噌づくりなど、里山の環境が生み出した地域のなりわい・年中行事などの文化体験プログラムを提供
- ・外国人初の刀鍛冶による作刀、体験指導・解説など、新たな取組もはじまっている



たたら鉄づくり体験

■観光の振興

- ・野外ライブ、花火大会、スポーツ大会など、中国地方を代表する大規模イベントから地域密着型イベントまで多数のイベントに開催場所を提供
- ・四季折々の花と植物を活かした花修景やイルミネーションなどでの集客により、地域観光に貢献
- ・観光拠点として備北地域における高い誘致能力を発揮



野外ライブ

■周辺地域との連携

- ・地域の情報発信やイベント開催など、備北地域の地域活性化に貢献
- ・開園以来、ボランティアをはじめとする地域の公園管理の担い手を育成するとともに、入園者と地域とのふれあいの場を提供
- ・近年は北口センターエリアにおいて、地域の情報発信やマルシェの開催などを実施



花火大会の様子

■公園利用者の健康増進

- ・広大な園地や多彩なエリアは、週末利用から日常の散歩まで様々なスタイルで利用できる空間を提供
- ・子どもから高齢者まで楽しめる、カヌーやグラウンドゴルフ、ツリークライミングなど、季節を通じた多様なスポーツ・アクティビティの機会を提供することで、公園利用者の健康増進に寄与



フィッシング・サイクリングの様子

■防災性の向上

- ・庄原市指定緊急避難場所、緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）の前線基地・活動拠点に指定※1
- ・総合防災訓練や避難訓練の場を提供することで、地域の防災性向上に寄与



庄原市総合防災訓練の様子

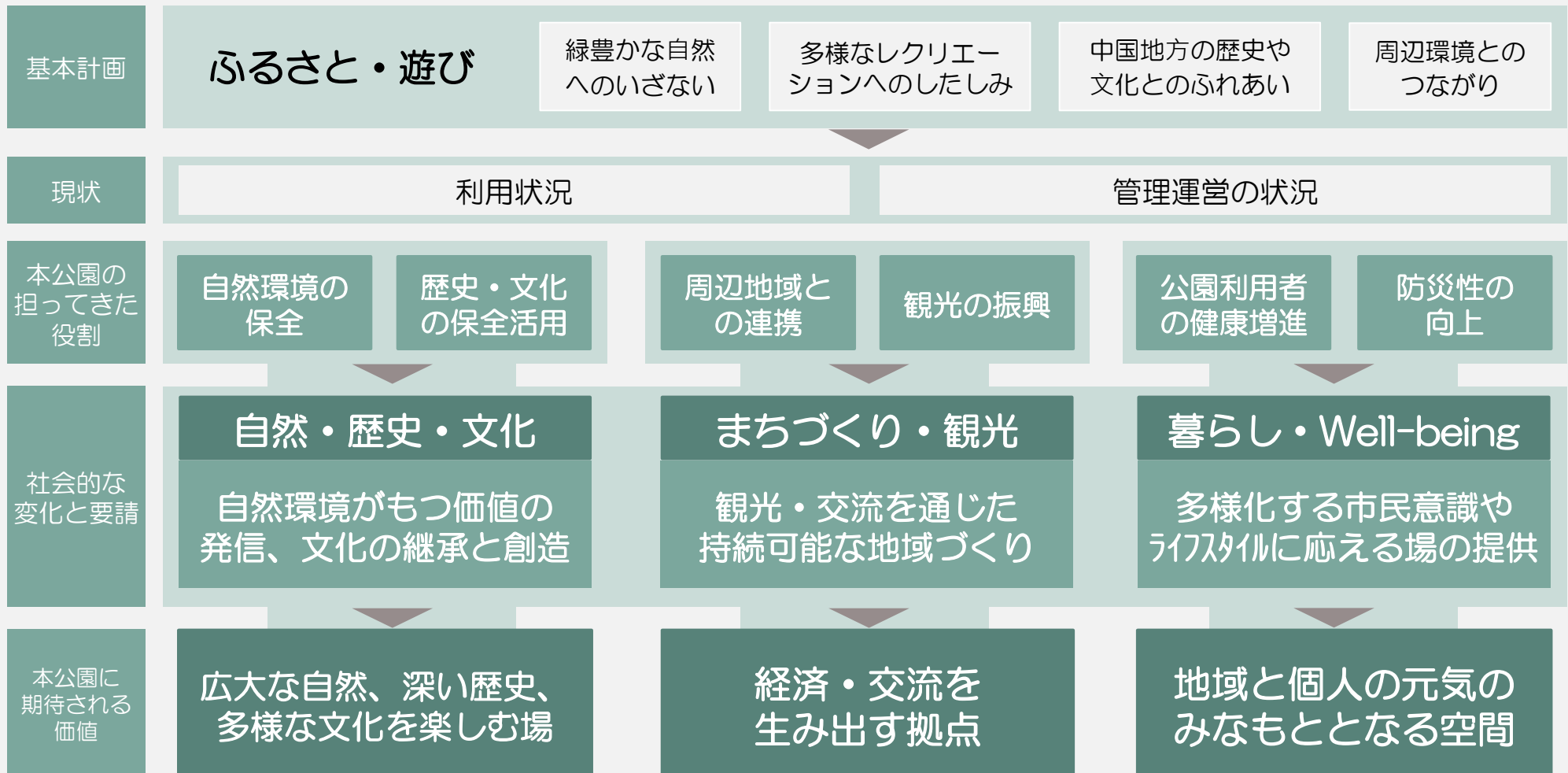
第4 社会的な変化・要請と本公園に期待される価値



1. 本公園に期待される価値の全体像
2. 自然・歴史・文化
 - ・ 社会的変化と要請①
 - ・ 本公園に期待される価値①
3. まちづくり・観光
 - ・ 社会的変化と要請②
 - ・ 本公園に期待される価値②
4. 暮らし・Well-being
 - ・ 社会的変化と要請③
 - ・ 本公園に期待される価値③

1. 本公園に期待される価値の全体像

- 本公園の基本計画、現状の利用・管理運営の状況、担ってきた役割を踏まえ、社会的な変化と要請から、①自然・歴史・文化、②まちづくり・観光、③暮らし・Well-beingの3つの観点から、「本公園に期待される価値」を整理します。



2. 自然・歴史・文化 -社会的な変化と要請①

自然環境がもつ価値の発信、文化の継承と創造

全国

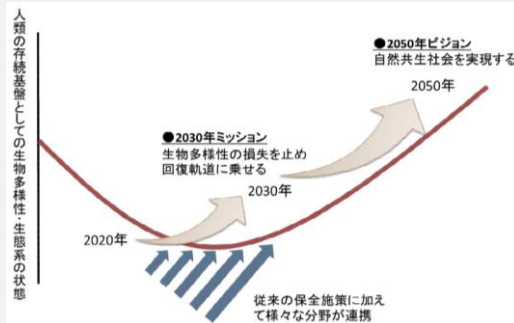
- 自然生態系を回復・再興していくネイチャーポジティブの考え方が世界共通の目標として浸透するとともに、企業のESG投資・CSR活動の重要性・関心も高まっています。

備北地域

- 備北地域では、今後の人口減少を背景に、里山の豊かな自然や文化、地域の魅力を守りながら発展していく里山共生都市の実現が目標とされています。（庄原市第2期庄原市定住自立圏共生ビジョン）
- また、地域における身近な自然環境を通じた環境学習の機会が求められています。

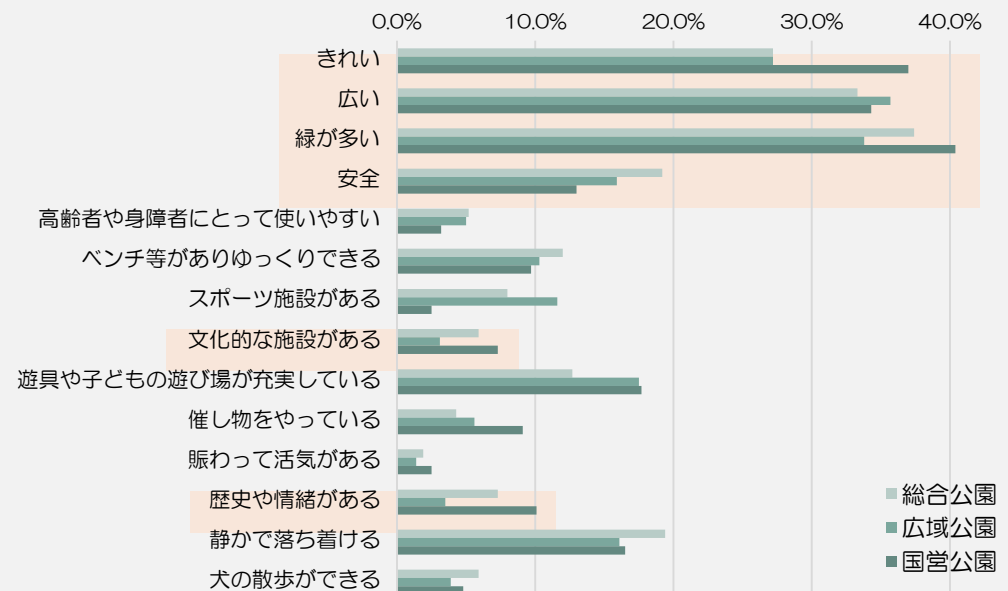
[ネイチャーポジティブに向けた政策目標]

- 2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復軌道に乗せることが世界共通目標に
- また、持続可能な開発のための教育（ESD）を通じたSDGsの実現が求められている



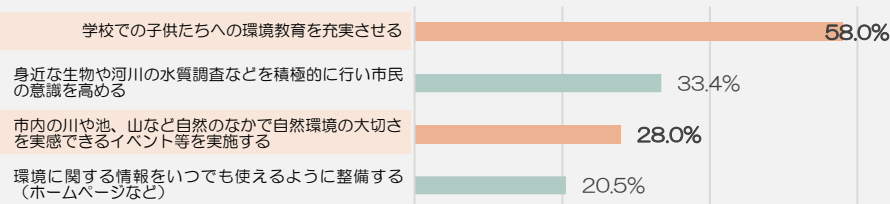
[公園を訪問地として選択した理由]

- 国営公園は、他の都市公園に比べ、緑の多さや広大さなどのほか、文化的な施設や歴史・情緒も訪問地として選択される要素となっている



[庄原市に期待する環境教育・学習（市内高校生）]

- 備北地域においても、学習機会の充実や身近な自然環境への体験イベントへの関心が高い



2. 自然・歴史・文化 -本公園に期待される価値①

本公園に期待
される価値

広大な自然、深い歴史、多様な文化を楽しむ場

- 高い満足度を得ている本公園の**花やイルミネーションなど、自然に囲まれた広大な園地を活用した景観の創出**に加え、園内の「花と緑」を切り口にした公園と市内の個人庭をつなぐ「庄原さとやまオープンガーデン」など、庄原市内との回遊の仕組みによる地域活性化の取り組みが今後も期待されています。
- ひばの里で行われている中国地方の伝統芸能である神楽やとんど焼きの開催、田植え、機織り、たたら製鉄など、地域の歴史・文化・なりわいをテーマにしたコンテンツの提供により、今後も**地域文化の保存と継承に寄与**することが重要な役割となります。
- 本公園への自然観察・体験や修景・風景への高いニーズに即し、**豊かな自然や里山の豊かさ、温かさ、暮らしやすさといった自然と歴史・文化の体験機会を、社会の変化に応じた形で提供、発信していくことが求められています。**

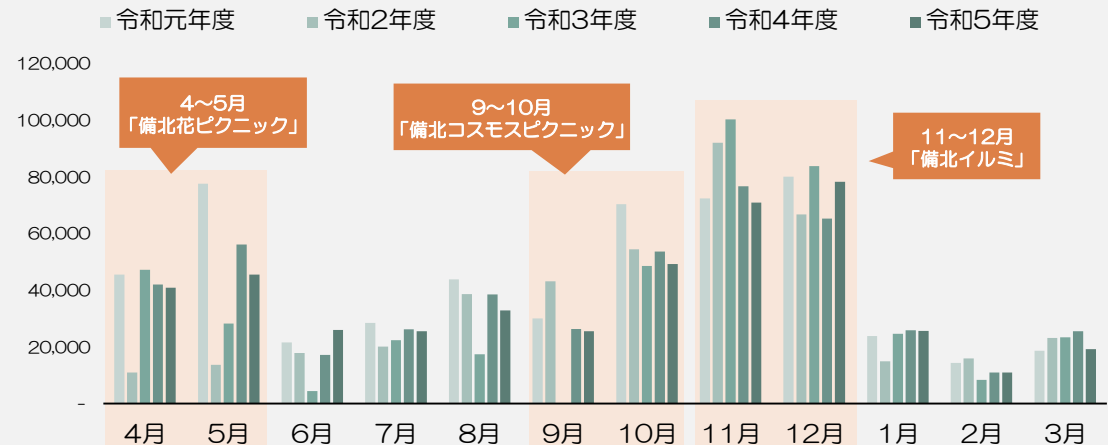
〔公園での緑と文化の活動〕

- ボランティア「しょうばら花会議」により個人庭の一般公開などを実施
- 正月飾りなどを焼く、伝統的な習俗行事であるとんど焼を開催



〔本公園の自然景観・修景へのニーズ〕

- 利用実態調査において、「自然豊かで季節の花がきれい」や、「ゆっくり自然を楽しむ」、「広々としていて、けしきがいいのでそびやすい」、「いろいろな体験ができた」など本公園の自然や景観、体験に対する高いニーズが確認されている。



3. まちづくり・観光 -社会的な変化と要請②

観光・交流を通じた持続可能な地域づくり

全国

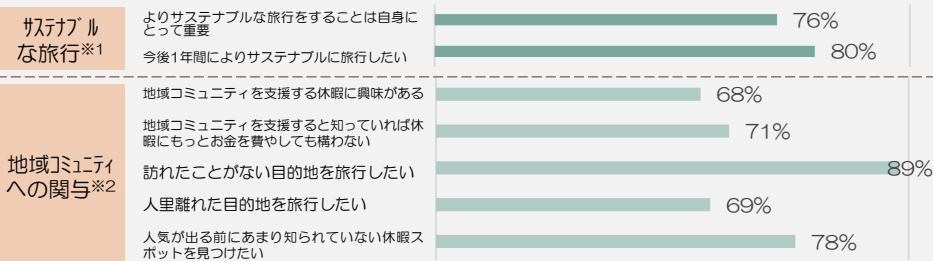
- インバウンドをはじめとし、隠れた名所・地方への訪問意向や地域の環境に配慮した持続可能な観光への志向の高まりなど、多様な旅行ニーズや、観光をきっかけにした地域への継続的かつ多様な形での関わり方が増えてきています。

備北地域

- 備北地域では、豊かな自然観光資源（景勝地など）や文化資源（神楽や里山風景など）を活かしたトレッキングやスキーなどのアウトドア体験が観光資源となっており、基幹産業である農業などの資源と組み合わせ、地域の魅力を活かした広域周遊観光の促進による経済波及効果なども期待されています。

〔世界の旅行者の旅行志向に関するアンケート結果〕

- 旅行の目的として、隠れた名所・地方への訪問や地域コミュニティへの関与への志向が高まっている



〔備北地域の観光戦略〕

- 備北圏域のまちづくりでは、本公園を活用した圏域周遊が期待されている
- 庄原市では、里山資源にフォーカスした観光地域づくりが進められている

備北圏域都市計画
マスタープラン
(広島県)

“比婆道後帝釈国定公園や国営備北丘陵公園をはじめとした豊かな自然環境とレクリエーション施設等の地域資源を活用した観光周遊ルートの形成などにより、国内外の多くの人々が「訪れたい」と思えるような魅力あるまちづくりを推進”

里山の誇りを育む
観光地域づくり
(庄原市観光戦略)

里山資源を活かした観光消費額の向上

- ①里山資源の魅力化（資源磨きと観光コンテンツ開発）
- ②里山ステイの推進（宿泊消費額の増加）
- ③里山アクティビティの推進（着地型旅行消費額の増加）
- ④里山フードツーリズムの推進（特産品・飲食消費額の増加）

〔備北地域の観光資源〕

- 公園周辺には道の駅、温浴・宿泊施設、名勝など、複数の観光資源が点在しており、農畜産品のブランド化も進んでいる



比和 三河内の棚田



夏秋いちご

比婆牛



※1Booking.com「Sustainable Travel Report 2023」（世界の35か国・地域の33,228人を対象として2023年2月に調査実施）、※2American Express Travel「2023 Global Travel Trends Report」（日米豪等7か国の年1回以上飛行機を利用して旅行をする人を対象として2023年2月に調査実施）に基づく観光庁作成資料を編集

3. まちづくり・観光 -本公園に期待される価値②

本公園に期待
される価値

経済・交流を生み出す拠点

- 本公園は、備北地域で誘致能力を発揮し、地域の主要な集客施設として、備北地域外からの来訪者の誘致に寄与してきた一方、認知度には向上の余地があり、今後、**地域と連携し域内の消費や活躍人口の拡大を図るなど、交流拠点として経済圏を広げ、持続可能な地域づくりに寄与**することが求められています。
- 「その土地ならではの」を志向する目的意識の高い旅行・外出のニーズに対応し、地域資源を組み合わせたコンテンツによる消費の拡大を図っていくことも重要です。

[庄原市の来訪者数ランキング（令和5年）]

国営備北丘陵公園	457千人
道の駅たかの	418千人
食彩館しょうばらゆめさくら	176千人
帝釈峡	127千人
桜花の郷・フォーレ庄原	98千人

- 本公園は備北地域で大きな誘致能力を有している

[旅行・外出予算（Ability層加重平均）]

日帰り旅行の予算	16,887円
宿泊旅行の予算	44,010円

[本公園へのニーズ調査結果（N=1000）※] ※中国・四国・近畿を対象にしたWebアンケート調査

行ったことがなく、 行ってみたい (Ability層) 潜在利用者	- 広島県、岡山県、大阪府に次いで山口県に多い - グルメや歴史・文化といったその土地ならではの資源が旅行・外出のきっかけとして志向されるほか、リフレッシュやアウトドアに対する志向も見られる - A層の旅行・外出予算は現在の園内消費額を大きく上回る
知らない/知っているが行きたくない (Non層)	- 本公園を「知らない」層は調査全体の73.7%が占めており、認知度の向上が求められる - 本公園に行きたくない理由として遠さ・アクセスの悪さに加え、特別感の欠如が挙げられた

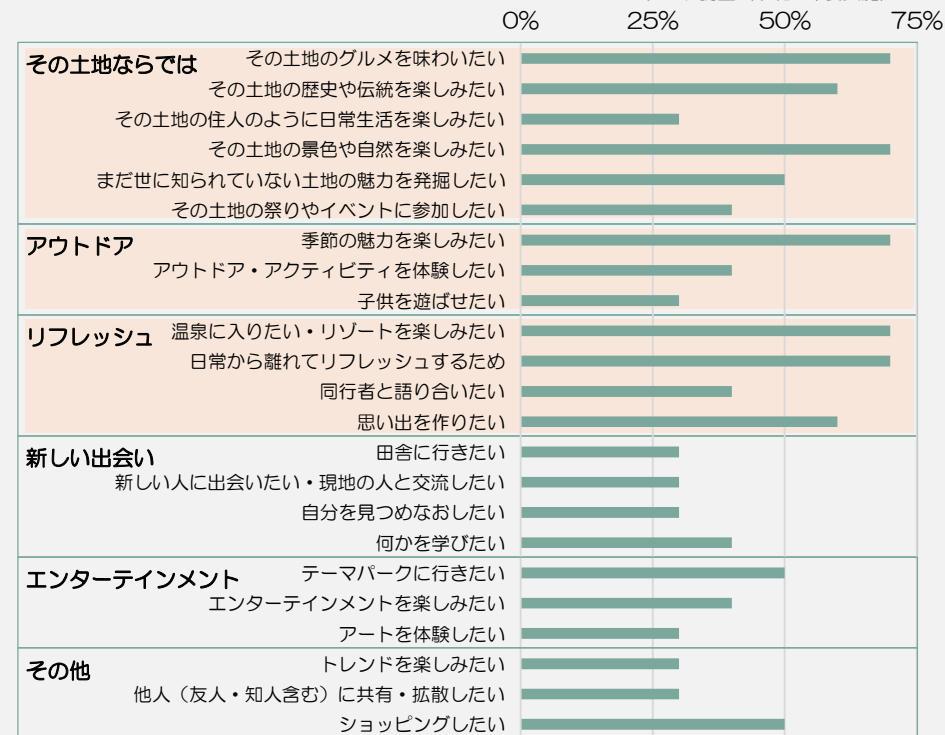
[関係機関ヒアリングでの主な意見※] ※公園と連携する観光団体、行政機関などに意見聴取を実施

- **地域ならではの資源を活用し、アクティビティや宿、食を組み合わせることで消費を促し、公園が地域の観光拠点となることが期待されている**
- さらに**民間の参入意欲の向上が見込める管理運営のスキームが期待されている**

出典：「広島県観光客数の動向（一般社団法人広島県観光連盟）」、「R5年庄原市観光統計調査（1月～12月）（一般社団法人庄原観光推進機構）」、Webアンケート調査（令和6年度実施）より作成

[旅行・外出のきっかけ（Ability層 N=300）※]

※Webアンケート調査（令和6年度実施）



※各項目について、5段階評価で「とてもあてはまる」「ややあてはまる」の回答を集計。面積の大きい項目ほど、回答者数の割合が高い

※本質問は本公園への来訪に限らず、旅行・外出における回答であることに留意

4. 暮らし・Well-being -社会的な変化と要請③

多様化する市民意識やライフスタイルに応える場の提供

全国

- 場所にとらわれない働き方の進展やライフスタイルの多様化により、自然豊かな環境やWell-beingを求めた地方移住への関心が高まっています。
- 国営公園は、他の都市基幹公園に比べ、様々な社会的役割が求められています。

備北地域

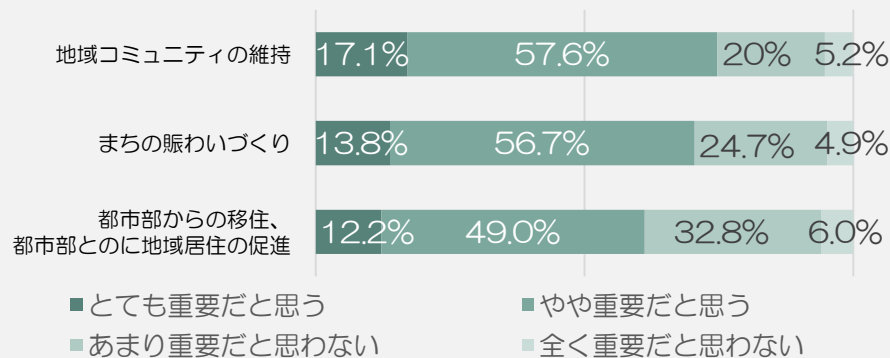
- 備北地域においても、多様な世代が住みやすい安心・安全な都市づくり、地域への愛着の醸成が進められており、多様な人材が活躍する、住民主体の地域づくりも積極的に進められています。（庄原市まちづくり基本条例など）

[地方移住への主な関心理由※1]

- 1位 人口密度が低く自然豊かな環境に魅力を感じたため
- 2位 テレワークによって地方でも同様に働けると感じたため
- 4位 ライフスタイルを都市部での仕事重視から、地方での生活重視に変えたいため

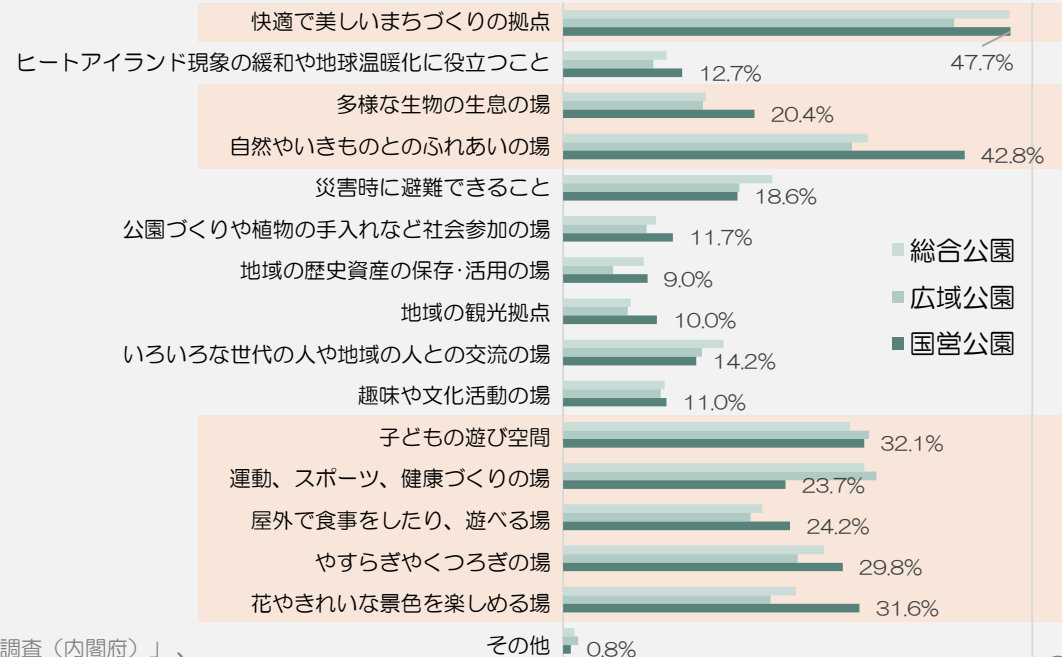
[高齢社会、地域活力維持に向けた取組の方向性※2]

- 少子高齢化の進行下にある地域では、地域コミュニティの維持や賑わいづくりへの意識は高まっている。



[公園に期待する役割（都市基幹公園など）※3]

- 国営公園は、まちづくり拠点、自然とのふれあい、遊び空間、健康づくり、くつろぎの場など、他の都市基幹公園に比べ、より多様な役割が求められている



4. 暮らし・Well-being -本公園に期待される価値③

本公園に期待
される価値

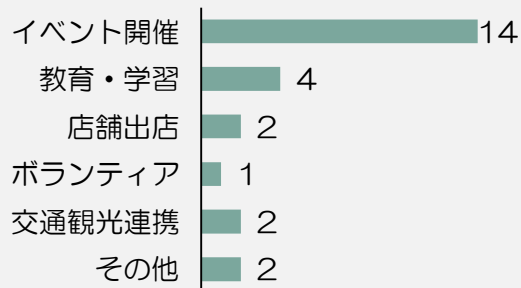
地域と個人の元気のみなもととなる空間

- 本公園では、広大な園地や多様なエリアをフィールドとし、ボランティアをはじめとする様々な活動が行われており、地域の健康・福祉・教育に貢献してきました。
- 社会の変化に伴う暮らしの変化に対し、持続的な公園の管理運営に向けた収益性と国営公園としての公共性のバランスを図りながら、多彩なニーズに応えることで、**誰もが、いつでも安全で快適に過ごせる場となること**が求められています。
- 地域・個人のwell-beingの実現ニーズや、園内で新たな関心や取組が生まれていることも踏まえ、**新たな挑戦を受け入れる土壌をつくり、交流の契機を提供することも期待されています。**

[関係機関ヒアリングでの主な意見※] ※公園と連携する観光団体、行政機関などに意見聴取を実施

- 公園の管理運営においては、**持続的な運営のための収益性**を考慮する一方、文化継承の拠点としてのひばの里やクーリングシェルとしてのエントランスセンター、乳幼児や高齢者利用のための施設機能に係る**公共性の担保**も両立することが求められる

[本公園での関心がある活動※]
(N=23、複数回答可)



[本公園での活動したいエリア※]
(N=23、複数回答可)



- 本公園での新たな活動として、様々なエリアにおいて、伝統文化や音楽、アクティビティ、物販など多様な活動に関する提案があった

[本公園での活動目的※ (N=300)]

※Webアンケート調査（令和6年度実施）

- 様々な活動に対し幅広く関心を集めている。花や風景、イルミネーション、散策へのニーズが特に大きい

本公園への来訪経験、今後の来訪意向を有する人300人を対象に調査	合計
花の眺望や風景を楽しむため	119
ひばの里などで里山体験を楽しむため	24
芝生広場やアスレチックなどで遊ぶため	59
アウトドア（キャンプ・バーベキュー等）を楽しむため	42
その他スポーツアクティビティを楽しむため	33
園内で散策・寛ぐため	103
園内で開催されるイベントに参加するため	46
地域イベント（遊び体験・スポーツ等）に参加するため	37
地域イベント（マルシェ・マーケット等）に参加するため	28
自然や野鳥の観察をするため	46
自然観察・自然体験に参加するため	59
写真を撮影するため	36
イルミネーションを見るため	106
学校行事	12
その他	5
覚えていない	24

第5 本公園の管理運営の方向性



1. 本公園の目指す姿
2. 目指す姿の実現に向けた取組方針
3. エリアごとの取組の方向性
4. エリア間の連携の方向性
5. 地域との連携の方向性

1. 本公園が概ね20年間で目指す姿

- 本公園に期待される3つの価値を発揮し、公園利用者に喜ばれ続けるよう、公園の将来像として、以下のとおり「本公園が概ね20年間で目指す姿」を設定しました。

自然や文化を思いっきり楽しみ、 地域と共に元気を生み出す公園

- 本公園の強みを最大限に発揮しながら、今後も、公園だからこそ実現した公共性の高い自然空間における体験や、里山のくらし、スポーツなどの多様な文化を、訪れた方々が“思いっきり”楽しみ、元気になる公園を目指します。
- 同時に、社会の変化を契機と捉え、多様なニーズに応じた本公園の活用や様々なチャレンジを支援するとともに、地域の財産である食文化や産業とあいまって、本公園を含む地域全体がその価値を高め、広く展開し、地域に元気を生み出せるよう、様々な主体とともに取り組んでいきます。
- これらの実現に向け、本公園へのニーズ、管理運営の課題も踏まえ、5つの取組方針を設定し、公園の管理運営を推進していきます。

取組 方針

①豊かな自然を、本公園だからこそ実現できる空間・機会として提供する

②中国地方の歴史・文化の源泉にふれ、暮らしとなりわいの面白さをひろげる

③備北・里山・公園ブランドを活かした集客・賑わいの拠点としての役割を担う

④様々な主体による新たなチャレンジ・創造を支援し、社会に還元する

⑤官民の連携による持続的な公園の管理運営を実現する

2. 目指す姿の実現に向けた取組方針

取組方針1

豊かな自然を、本公園だからこそ実現できる空間・機会として提供する

- 社会全体として自然環境を一層重視する潮流がみられることや、価値観が多様化する中で自然に近いゆとりある生活にも関心が高まっていること、アクティビティや憩いなどの公園利用へのニーズなどを踏まえ、本公園だからこそ豊かな自然環境と広大な園地を活かし、誰もがいつでも快適に、自然環境の中で思いっきり遊び、学び、憩い、暮らしの一部として活用できる空間・機会を提供します。

[取組項目と主な取組効果の例]

① 豊かな自然へのふれあい ・体験の提供

- 自然環境や国兼池を中心とした景観が、各エリアの特色や利用頻度に応じたメリハリのある水準のもとに保全され、手の入った自然・手の入らない自然など、多様な自然環境を体験できる
- 生き物とのふれあい・アウトドア体験を通して**自然の豊かさに親しむ**ことができる
- ボランティア、地域団体、地域住民をはじめ多様な公園管理の担い手が**連携・協働しながら活動を広げ**、公園を含めた地域の緑を育む土壌が形成されている



② 多様なアクティビティの提供

- 多様なエリア、様々なアクティビティの提供により、大人から子供まで楽しめる
- 市民の日常的な健康増進の場として身近な存在になる
- 中国地方において、**ここでしかできない遊び・体験を目的とした公園利用**ができる



③ 開かれたサードプレイスの提供

- 家族とも、友人とも、一人でも、誰もが安心して過ごせる居心地のよい空間を楽しむことができる
- 季節の花々や樹木、緑陰やクーリングシェルターなど、生活における癒しと憩いの場となる
- 地域住民や観光客など、**様々な暮らし方に応じた目的を達成する滞在**ができる



2. 目指す姿の実現に向けた取組方針

取組方針2 中国地方の歴史・文化の源泉にふれ、暮らしとなりわいの面白さをひろげる

- 中国地方の地域文化の保存・継承に寄与する本公園の役割や、周辺地域における里山の環境を活かした観光やまちづくりの取組状況、地域資源と組み合わせた旅行や体験へのニーズの高まりなどを踏まえ、歴史・文化や、暮らしとなりわいの体験を公園利用のコンテンツとして磨き、その面白さをひろく伝えます。

[取組項目と主な取組効果の例]

④歴史・文化（たたら・里山・なりわい）の保存・活用

- ・ 本公園を取り巻く地域の歴史や文化に触れ、それらを学ぶ機会がある
- ・ たたら製鉄や、里山など地域の特色のある文化を活用した**創造的活動を体験**できる
- ・ 本公園を起点に、製鉄など中国山地などのストーリーを楽しみながら、**中国地方全体の関係人口の創出**につながっていく
- ・ これらの取組を通じて、**地域の歴史・文化の伝承を促進**する



⑤ものづくり・暮らしへのふれあい・体験の提供

- ・ 地域に伝わるものづくりについて学び、体験することができる
- ・ 訪れる人々が**地域の暮らしに対する理解を深める機会**がある
- ・ 地域の暮らしとなりわいが継承されるきっかけがある



2. 目指す姿の実現に向けた取組方針

取組方針3 備北・里山・公園ブランドを活かした集客・賑わいの拠点としての役割を担う

- 本公園が有する誘致能力と、地域特有の豊かな観光資源、文化資源の活用や産業との連携への期待を踏まえ、各種地域資源と組み合わせながら本公園の賑わいの拠点としての役割を強化し、備北地域の持続可能な地域づくりや、中国地方の広域的な周遊につなげます。

[取組項目と主な取組効果の例]

⑥ 新たな集客・賑わいの創出

- 多くの人々を引き寄せる地域の特産品や文化をテーマにしたイベントにより **人々が集う**
- 暮らし、食、産業など多様な地域の要素を組み合わせ、地域の魅力を発信するとともに、本公園ならではの体験をすることができる



⑦ 地域周遊の拠点化

- 地域行政や観光団体、地元企業と連携し、**地域一体となって周遊**する機運が醸成され、地域への来訪者が本公園へも足を運ぶきっかけになる
- 地域の自然や文化、歴史をテーマにした観光ルートに位置づけられる、**地域の魅力を楽しむ拠点**になる



⑧ 多世代交流の促進 ・ 活躍人口の創出

- 子どもから高齢者まで幅広い世代が参加できる**多様な興味・関心に応じた活動を通じて交流が生み出されていく**
- 地域を支えるボランティア活動などを通じて、異なる世代が協力し合うことができる



2. 目指す姿の実現に向けた取組方針

取組方針4

様々な主体による新たなチャレンジ・創造を支援し、社会に還元する

- ▶ 中国地方において活躍人口の拡大が求められていることや、これまでの本公園における取組の蓄積が成長・結実し、新たな展開につながっていることなどを踏まえ、広大で多様なフィールドを擁するオープンスペースとして、様々な主体の新たなチャレンジや創造を支援し、社会への還元を促進します。

[取組項目と主な取組効果の例]

⑨自然教育・実証研究の場の提供

- ・ 民間企業、イベント主催者、学生、起業家などによる実験的な取組に活用されるなど、**多様な主体が新たな活動や体験に挑戦し、楽しむことができる**
- ・ 地場企業をはじめとする企業のCSR活動の場として活用できる



⑩多様な公園活用の促進

- ・ 変わり続ける本公園への**多様な活動ニーズに応え、新たな活動や体験に挑戦し、楽しむことができる場**となっている
- ・ コミュニティの拠点として、地域を始め、多様な人々が集まる場となっている



2. 目指す姿の実現に向けた取組方針

取組方針5

官民の連携による持続的な公園の管理運営を実現する

- 多様化する訪問者のニーズに応え、地域の活性化に寄与していくため、官民の連携を強化し柔軟な管理体制を構築し、持続的な公園の管理運営を実現していく必要があるため、民間の力も活用しながら、柔軟な管理のもと多様なサービスを提供し、時代や環境に応じて本公園の価値をアップデートします。

[取組項目と主な取組効果の例]

⑪ 柔軟な管理運営

- ・ 季節や利用ニーズに応じた柔軟な開園時間や利用料金設定などにより、新たな活動や利用の可能性が広がる
- ・ 民間事業者やボランティア団体などとの更なる連携、新技術などの活用により、高品質で効率的な運営が実現される



⑫ 園内消費の増加

- ・ 本公園ならではの魅力を生かした特色あるエリアごとの高品質なサービス提供と、エリア間の相互利用の促進により、園内全体の利用と消費の拡大が進み、持続可能な公園の管理運営が実現するとともに、地域に対して消費が波及していく



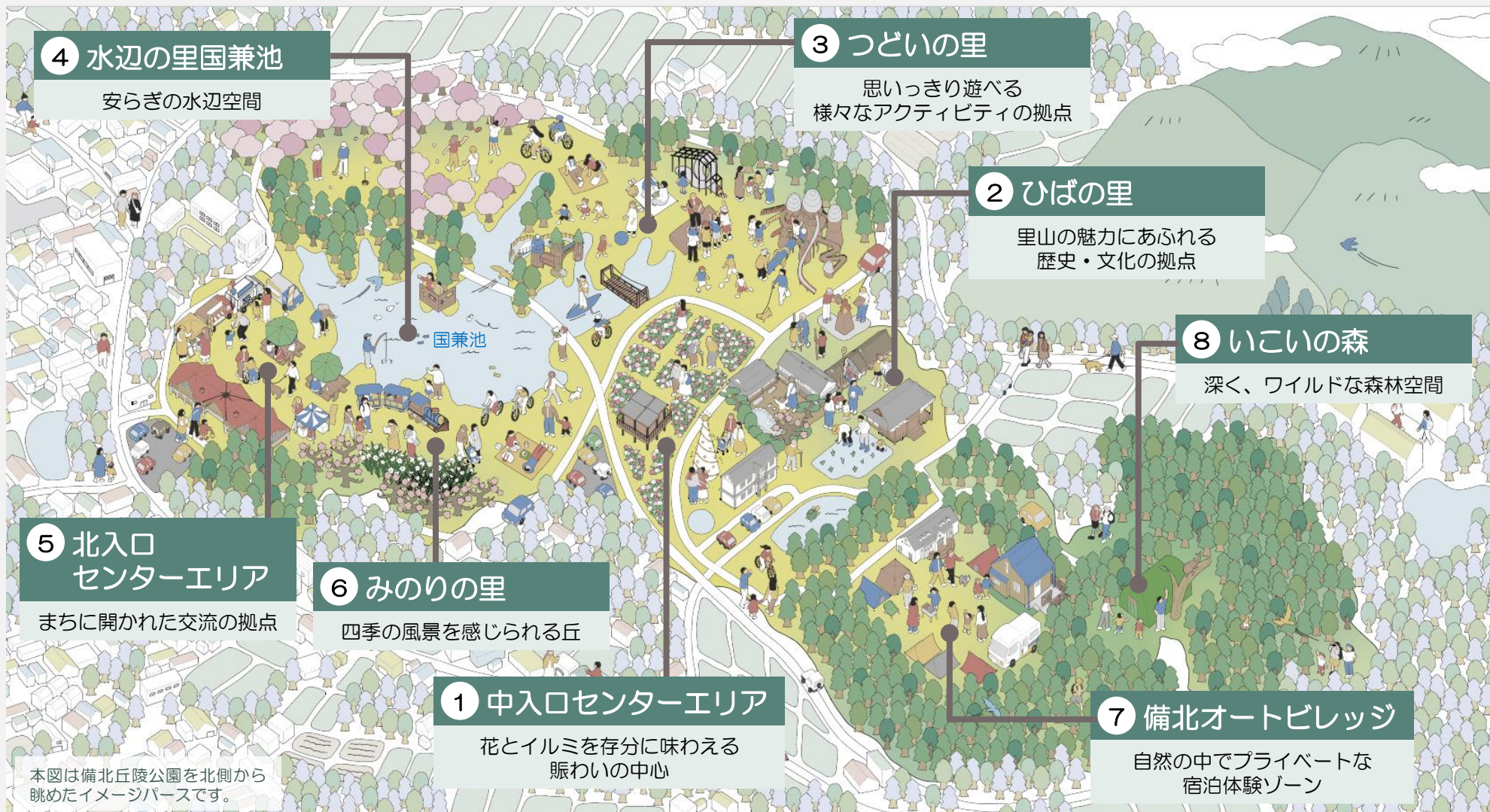
⑬ サービスへの再投資・更新

- ・ 利用者のニーズに応じた適切なサービスの提供や老朽化施設の更新、移動サービスの充実などにより、より快適に園内で過ごすことができる
- ・ 公園の魅力を一層高めるとともに、民間事業者による新たな投資や地域との連携強化により、地域全体に本公園の賑わいが波及していく



3. エリアごとの取組の方向性

➤ これまでに示した取組方針・取組を踏まえ、エリアごとの取組の方向性を整理しました。



3. エリアごとの取組の方向性

<①中入口センターエリア>

方向性

花とイルミを存分に味わえる賑わいの中心

- 中入口センターエリアは、花修景やイルミネーションの時期において、利用の中心となっています。また、庄原の旧学校を模した特徴的な意匠のビジターセンターは園内の大きな収入源となっており、一層の魅力向上・消費拡大を図ることが期待されます。一方、他の各エリアへ回遊されない来園者も多く見られます。
- これを踏まえ、本エリアは、柔軟な利用や新たな利用方法も検討しながら、公園のメインコンテンツとしての花修景とイルミネーションの魅力を一層磨いていきます。あわせて、ビジターセンター等の施設も活用しながら、賑わいの拠点としての機能を高めるとともに、モビリティ起点や情報発信等、他エリアへの回遊起点や中継地点としての機能を発揮していきます。



本エリアにおける 重点取組

①豊かな自然へのふれあい
・体験の提供

⑥新たな集客・賑わいの創出

⑧多世代交流の促進・
活躍人口の創出

取組の 方向性 (イメージ)

- ・ 花修景・イルミネーションのブラッシュアップやビジターセンターをはじめとする収益施設の充実により公園の見どころ・賑わいと活動の起点として集客力を向上・園内消費の拡大を促す
- ・ 新たな客層の獲得に向けたブランディング活動の中心として機能
- ・ インフォメーション機能を強化し、公園全体の回遊を促す



【他公園の参考事例】

- ・ 国営常陸海浜公園（茨城県）では、ネモフィラなどによる花修景が話題に。大規模花修景への魅力を広げるため、フォトパートナーによる撮影レクチャー、早朝鑑賞会、花修景鑑賞の参加料を更なる魅力向上に充当・還元するなど、満足度を高めるための取組も実施している。（写真左・右）
- ・ いばらきフラワーパーク（茨城県）では、「見る」だけでなく、五感を使って花を「感じる」プログラムを提供している。

3. エリアごとの取組の方向性

<②ひばの里>

方向性

里山の魅力にあふれる歴史・文化の拠点

- ひばの里は、中国地方における里山の風景を再現し、年間を通じた様々なイベントによる園内体験の目玉のひとつとなっています。文化継承やボランティア活動の場としても利用されており、さとやま屋敷は質の高い管理がされている一方、利用率の低い施設もあり、施設管理と利用のバランスを図ることが必要です。
- そのため、これからの本エリアは、地域の文化的資源と連携しながら、施設・サービスの高付加価値化を目指し、歴史・文化の拠点としての魅力を磨きます。

本エリアにおける
重点取組

④歴史・文化（たたら・里山・なりわい）の保存・活用

⑤ものづくり・暮らしへの
ふれあい・体験の提供⑧多世代交流の促進・
活躍人口の創出取組の
方向性
(イメージ)

- ・ 歴史・文化の紹介機会・体験機会の充実を図り、地域の文化的資源との連携も推進
- ・ 一部施設・サービスの高付加価値化による収益の拡大



【参考事例】

- ・ 吉野ヶ里歴史公園（佐賀県）では、文化財、歴史、植物などの専門家が、当時の生活様式や遺跡の調査発掘の様子などをそれぞれの視点で解説する講座を開催している。（左）
- ・ あいな里山公園（国営明石海峡公園神戸地区（兵庫県））では、ヨガやカフェなど里山では事例の少ない利用スタイルの導入や、ジビエなど里山の生業を深掘りする体験など、新たな里山活用に取り組んでいる。（右）

3. エリアごとの取組の方向性

<③つどいの里>

方向性

思いっきり遊べる様々なアクティビティの拠点

- つどいの里は、グラウンドゴルフ、軽スポーツや大型遊具、林間アスレチックなど、多様なアクティビティの場を提供している一方で、芝生広場・屋外ステージの大規模イベント利用率は低下しています。また、レストハウスは利用期間が限られており、収益率が低い状況です。
- そのため、本エリアの広大なフィールドを活かしつつ、今後のニーズを踏まえた提供アクティビティの見直し、イベントの強化（イベントの幅、地域連携）などを行いながら、思いっきり遊べる様々なアクティビティの拠点として位置付けます。



本エリアに
おける
重点取組

②多様なアクティビティの提供

③開かれたサードプレイスの提供

⑥新たな集客・賑わいの創出

取組の
方向性
(イメージ)

- ・ 自然を活かした多様なレクリエーション、アクティビティの充実・集約
- ・ 消費拡大につながるイベントなどの誘致



【参考事例】

- ・ 火の山公園（山口県下関市）では、「まちなかではしづらい「特別なアクティビティ」にチャレンジできる公園」をブランドコンセプトの一つに位置づけ、リニューアルを検討している。（左）
- ・ 徳山公園（山口県周南市）などでは、施設や設備がなくても実施可能なアウトドアコンテンツを広場の一角などに社会実験的に導入し、コンテンツの成熟やファン層の拡大につなげている。（右）

3. エリアごとの取組の方向性

<④水辺の里国兼池>

方向性

安らぎの水辺空間

- 水辺の里国兼池は、県内最大のため池である国兼池の景観・環境を活かした力又一体験や野鳥観察、フィッシングエリアとなっている一方、エリアの利用率は相対的に低いことに加え、ウッドデッキなどの一部施設は老朽化が進行しており、計画的な更新修繕が必要です。
- 今後、本エリアはその景観のポテンシャルを活かし、誰もがゆっくり過ごしながらかつ憩うことのできる安らぎの水辺空間として位置付け、エリアの魅力向上や快適性向上を図ることで、エリアへの滞留の増加を目指します。



本エリアに
おける
重点取組

①豊かな自然へのふれあい
・体験の提供

③開かれたサードプレイスの提供

⑨自然教育・実証研究の場の提供

取組の
方向性
(イメージ)

- ・ エリアへの滞留の向上
- ・ 快適性の向上に資する施設の適正化・再投資の検討



【参考事例】

- ・ 開成山公園（福島県）では、民間活力の活用により、水辺のデッキ改修等を実施。また、事業の効果を公園周辺に波及させるエリアマネジメントを実現。（左）
- ・ 西川緑道公園（岡山市）では、飲食イベントやパフォーマンスなど、水辺の多様な利用が展開されている。（右）

3. エリアごとの取組の方向性

<⑤北入口センターエリア>

方向性

まちに開かれた交流の拠点

- 北入口センターエリアは、本公園のエントランスのひとつとして公園利用の起点となっており、庄原の市街地との接点であり、本公園の園内消費の収入源でもある一方、エントランスセンター国兼の2階をはじめとする施設利用率の低下が課題となっています。
- これを踏まえ、本エリアは市街地に向けた公園の顔として、開かれた交流拠点到位置付け、コンテンツや収益サービスの充実による魅力向上・消費拡大を図るとともに、周遊観光につながる連携機能の強化を図ります。



本エリアにおける 重点取組

⑥新たな集客・
賑わいの創出

⑦地域周遊の拠点化

⑧多世代交流の促進
・活躍人口の創出

⑨自然教育・
実証研究の場の提供

⑩多様な公園活用の
促進

取組の 方向性 (イメージ)

- ・ 集客機能・コンテンツの充実と快適性の向上
- ・ 地域連携・周遊観光の拠点化



【参考事例】

・ 城下スクエア（岡山県津山市）では、地域の特産品を扱う食まつりや、たき火を囲むイベント、アートの取組など、地域資源を活用し、様々な主体によるイベントが開催されている。また、日常においても、アーティスティックな卓球台が設置されるなど、地域住民が利用しやすい工夫が取り入れられている。

出典：津山市公式サイト <https://www.city.tsuyama.lg.jp/article?articleId=67ce98c647c0d315cfe763f4>

3. エリアごとの取組の方向性

<⑥みのりの里>

方向性

四季の風景を感じられる丘

- みのりの里は、花木・果樹園芸の収穫・加工の体験ゾーンとして整備されましたが、現在は、スイセンガーデンをはじめとする花修景イベントは実施されているものの、開催時期・季節が限定的であり、エリアの利活用に関する工夫が必要です。※現在は自主事業によりグランピング施設を設置
- 今後、本エリアにおいては、四季の風景を感じられる丘として、柔軟な管理運営を図るとともに、更なる利活用方法を検討するものとします。



本エリアに
おける
重点取組

③開かれたサード
プレイスの提供

⑤ものづくり・暮らしへ
のふれあい・体験の提供

⑥新たな集客・
賑わいの創出

⑩多様な公園活用の促進

取組の
方向性
(イメージ)

- 柔軟な管理・運営
- 新たな利活用方法の検討



【参考事例】

- 「森の芸術祭」(岡山県北部)や、砂浜美術館(高知県黒潮町)などは、自然とアートを融合させた取組で、観光を呼び込んでいる。
- リブランディングの取組を進める菰沢公園(島根県江津市)では、かくれんぼの世界大会や期間限定のサウナなどの実験的な取組が行われている

3. エリアごとの取組の方向性

<⑦備北オートビレッジ>

方向性

自然の中でプライベートな宿泊体験ゾーン

- 備北オートビレッジは、自然環境に包まれながら、レクリエーションなどの野外活動とコミュニケーションを楽しむことができるオートキャンプ場として、宿泊拠点・アウトドア体験の場を提供してきましたが、施設の老朽化が顕著であり、計画的な更新・修繕が必要です。
- そのため本エリアは、プライベートな宿泊体験ゾーンとして位置付け、キャンプレジャーに対するニーズが多様化していることを踏まえながら、新たな利用者層の獲得に向け、施設の設置などの可能性も含め、利用者や収益性に見合った施設・サービスの適正化・再投資を図ります。



本エリアに
おける
重点取組

①豊かな自然へのふれあい・体験の提供

③開かれたサードプレイスの提供

取組の
方向性
(イメージ)

- ・ 利用率・収益性に見合った施設・サービスの適正化
- ・ 利用率の向上に資する再投資



【参考事例】

- ・ 「泊まれる公園 INN THE PARK」（静岡県）では、宿泊施設（少年自然の家）を広域からの利用者を見込んだ宿泊施設にリニューアル（左）。また、施設の一部は一般公園利用者向けにカフェとして開放。
- ・ 安芸太田町の里山ワーケーションなど、中国地方においても、キャンプや野営体験とワーケーションを組み合わせた事例が誕生している（右）

3. エリアごとの取組の方向性

<⑧いこいの森>

方向性

深く、ワイルドな森林空間

- いこいの森は、丘陵景観を生かし、人々が集い、憩い、遊び、自然を観察し、自然とふれあうことができる場として整備され、現在は、夏季限定で自然に触れあう集客コンテンツの目玉としてカブトムシドームが営業されています。一方で、エリア利用率と森林・散策路などの管理運営のバランスを図っていくことが課題です。
- 今後、本エリアは、利用のニーズやスタイルなども勘案し、管理水準を見直しながら、野生に近い自然の中でこそその体験や実践的な環境学習などの場としての活用を図ります。



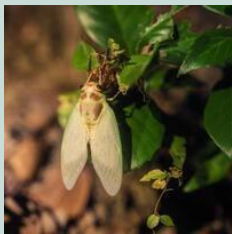
本エリアに おける 重点取組

①豊かな自然へのふれあい・体験の提供

⑨自然教育・実証研究の場の提供

取組の 方向性 (イメージ)

- ・ 柔軟な管理水準の見直し
- ・ 自然環境の保全・体験に係るボランティア活動の継続
- ・ 産官学連携による自然教育の場の提供



【他公園の参考事例】

- ・ 比治山公園（広島市）では、公園の魅力向上等の一環として、昆虫（セミ等）の観察会を実施。専門家からセミの生態を学ぶほか、セミのふ化の美しさを親子で観察するなど新たな視点のプログラムも導入。
(左)
- ・ 宍道総合公園（島根県松江市）では、民間事業者と連携し、利用率の低かったエリアに社会実験としてシューティングスポーツ（サバゲー）を導入したところ、利用者数、売上げともに上昇が確認された。
(右)

4. エリア間の連携の方向性

- 公園内の各エリアに存在する多種多様なコンテンツの有機的な連携を図り、エリアを跨いだ様々な楽しみ方を提案することにより、各エリアの相互利用を推進し、公園の価値を一層高めていきます。
- 各エリア間の連携により、例えば以下のようなテーマの設定により、エリアを横断した新たな過ごし方も想定されます。



5. 地域との連携の方向性

- 本公園を起点に、庄原市をはじめとする備北地域や中国地方の各地と連携の輪を広げることで、地域の自然や文化を用いたイベントや体験を始めとする公園の取組みを波及し、様々な地域の活動の担い手とともに相乗効果を高めていくことで、豊かで活力のある地域づくりを実現します。
- 例えば以下のような連携により、地域とのつながりを促進し「自然や文化を思いっきり楽しみ、地域と共に元気を生み出す公園」を幅広く体現することを目指します。

連携の方向性

- ・ 多様な世代・分野の交流促進
- ・ 観光客の受入環境の整備・交流促進
- ・ 地元事業者や特産品などとの連携を通じたイベント・コンテンツ造成
- ・ 地域の情報発信・ブランディング連携

- ・ 観光周遊ルートの開拓
- ・ 地域の情報発信・ブランディング連携
- ・ 多様な世代・分野の交流促進
- ・ 環境保全・保護

- ・ 山陰・山陽をつなぐ広域周遊ルートの開拓
- ・ 関係人口の拡大

連携テーマ（例）

○古民家ステイ

園内で全身を動かして遊び、地域に眠る古民家を活用した宿泊施設等への宿泊につなげることで、市内への滞在日数を増やす

○里山の暮らし

公園内での収穫や工作体験と併せて、地域に広がる豊かな里山風景を楽しむ、庄原グルメを満喫するツアーを実施

○生物多様性の保存

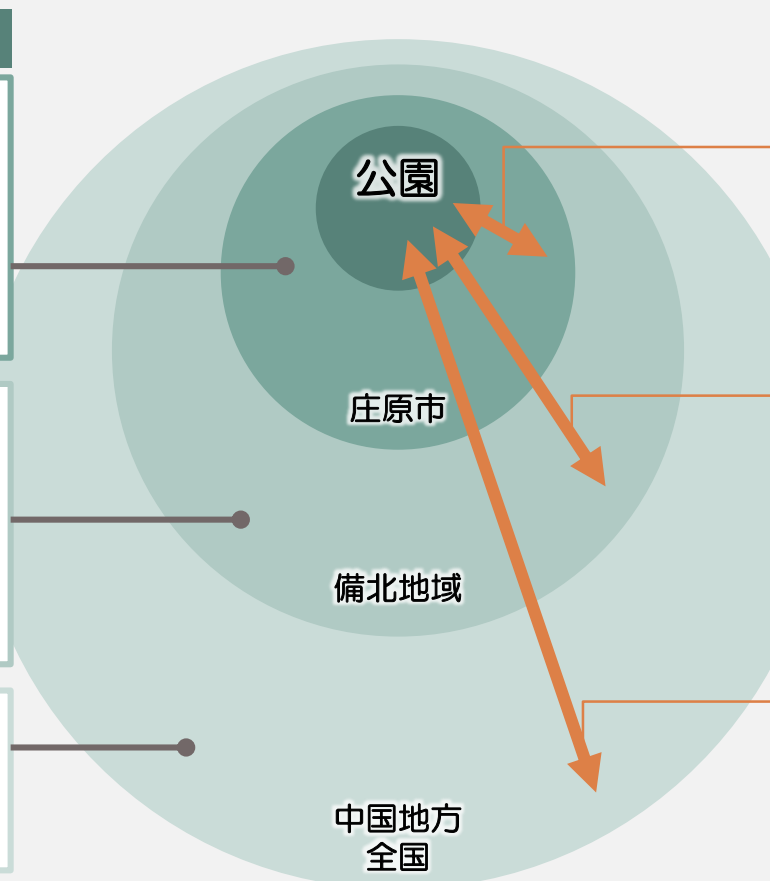
備北地域に生育する貴重植物の鑑賞、地域の教育機関と連携した希少生物の保全や保護を実施

○グラウンドゴルフ

備北地域での健康増進・コミュニティ形成を目的とした地域大会の開催や会場を横断した連携を実施

○たたら

「たたら製鉄」の技を公園内で体感した後、「鉄どころ」として発展を遂げてきた出雲地方の「鉄穴流し」・「山内」の景観や鉄づくりを司る神話の地を巡るルートの造成



第6 管理運営ビジョンの推進方法



1. 管理運営ビジョンの推進に向けて

1. 管理運営ビジョンの推進に向けて

- 管理運営ビジョンの実現に向けて、本公園を取り巻く状況の変化に適時適切に対応し、官民の多様な主体が協働しながら推進していきます。

各自の強みを活かした
協働推進体制

- 国・管理運営事業者・公園関係者・学識経験者などの様々な主体が協働・支援しあえる推進体制を整備します

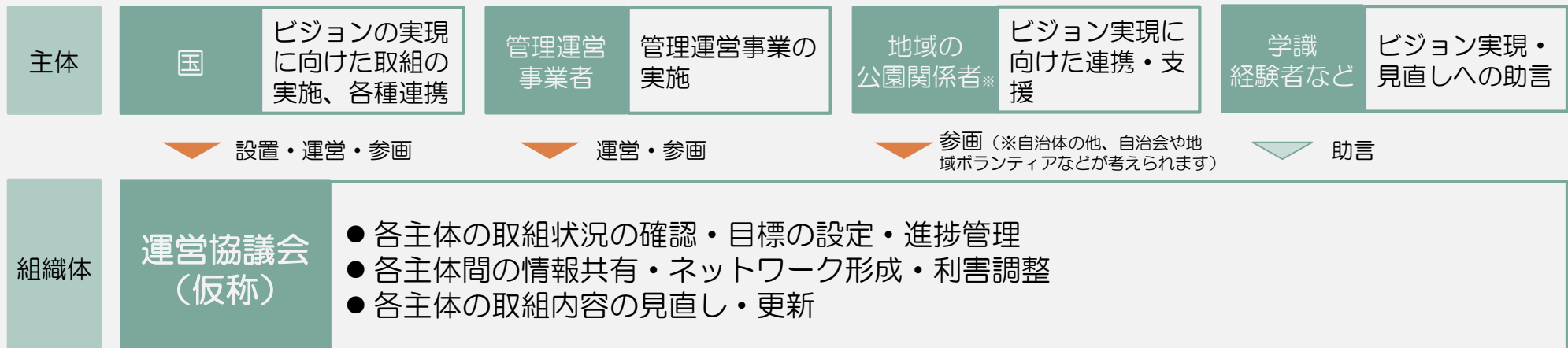
共通目標の下での
推進・進捗の管理

- 各主体の取組内容に基づき、共通目標を設定します
- 定期的なモニタリングを通じて進捗管理・目標達成を確認・推進します

社会情勢の変化への
対応

- 社会情勢などの本公園を取り巻く状況変化に応じて、適切に管理運営ビジョンを見直し・更新します

[管理運営ビジョンの推進体制（案）]



参考資料



1. 主な関連計画
2. 本公園へのニーズ調査概要
3. Webアンケート調査
4. 公園活用者向けアンケート調査
5. 関係機関協議

1. 主な関連計画

基本計画

- 国土交通省により昭和58年3月に策定（平成2年9月一部変更）
- 各エリアにおけるコンセプト・施設の整備方針・活用方針を示す

基本テーマ

ふるさと・遊び

基本理念

1. 緑豊かな自然へのいざない
2. 中国地方の歴史や文化とのふれあい
3. 多様なレクリエーションへのしほしみ
4. 周辺環境とのつながり

基本方針

1. 国兼池を中心とした湖畔景観や、丘陵景観等の自然を生かした公園
2. 中国地方の古い文化の継承や、新しい文化をはぐくむことのできる公園
3. 四季にわたる多様なレクリエーションに対応できる公園
4. 中国地方の全域から利用できる公園
5. 地域とのふれあいのできる公園

管理運営プログラム（令和3年度-令和7年度）

- 国土交通省により、5年単位で策定（最新版は令和3年度-令和7年度を計画期間として策定・実行中）
- 社会資本整備重点計画に対応し、社会資本ストック効果の最大化を図る目的で重点事項を定める
- 今後、ビジョンの実現に向けた目標を盛り込むことを予定

令和7年度までの重点事項

1. 中国地方の歴史文化の保存・継承及び自然環境の保存・活用を図るため、体験学習の場の提供と体験プログラムの充実
2. 公園及び周辺地域の活性化を目指し、観光等の関係団体との連携・協議体制の強化
3. 協働による公園管理を通じた地域の担い手育成
4. 誰もが安全で安心して利用できる公園づくり

令和7年度までの管理運営方針

1. 地域の多様な団体等と連携し、自然環境と四季折々に展開する花や緑の演出、中国地方に伝わる歴史文化の保存・継承を行うためのプログラムを利用者に提供
2. 広域観光推進のため、周辺地域の魅力を積極的に発信



https://www.cgr.mlit.go.jp/chiki/kensei/toshi/pdf/O3_R3-R7.pdf

2. 本公園へのニーズ調査概要

- 管理運営ビジョンの策定にあたり、公園の利用者、活王者、関係者を対象としたニーズ調査を以下のとおり実施しました。

		調査対象	調査内容	目的
利用者	【2-1】 Webアンケート調査 P46～P53参照	- 幅広い年齢・性別の中国・四国・近畿地方在住者 - スクリーニング調査：11,019人 - 本調査：800人	- 来訪経験&来訪意向 - 回答者属性・旅行/外出の選好傾向 - 公園の現状・将来像への評価	- 来園経験・意欲の有無に応じた公園に対する意見の把握 - 今後來園が期待できるターゲット層の設定
活王者	【2-2】 活動アイデアアンケート調査 P54参照	公園でのイベント、ボランティア、教育活動実施に関心がある事業者、団体、個人	公園で想定する活動アイデア（イベント、ボランティア、教育活動など）	- 公園での活動可能性・意欲の把握 - 聴取内容は管理運営ビジョン及び今後の公園の利活用の参考情報とすることを想定
関係者	【2-3】 関係機関協議 P55参照	公園と連携する観光団体、行政管掌課など	- 公園を取り巻く環境 - 地域における公園の位置づけ - 今後の展望	- 公園の果たすべき役割、連携可能性などの把握 - 聴取内容は管理運営ビジョン及び今後の公園の利活用の参考情報とすることを想定

2-1. Webアンケート調査(1/8)-設問

▶ LAND層の分布割合とそのニーズ傾向を把握することで、公園に対するニーズや集客向上のための課題を明らかにすることを目的に、Webアンケート調査を実施した。

調査	設問区分	設問
SCR調査 (スクリーニング調査) ※備北丘陵公園の誘致圏に居住の登録モニター11,019人が回答	回答者の属性	F 性別、年齢、居住地、同居家族
	LAND層の振り分け	SC1 広島県内の施設の来訪経験について教えてください。 SC2 広島県内の施設の来訪意向について教えてください。 SC3 備北丘陵公園に来訪した目的は何ですか。 SC4 備北丘陵公園を知ったきっかけを教えてください。 SC5 SC2で「とても行きたい」、「機会があれば行きたい」の選択者）備北丘陵公園に行ってみたく理由を教えてください。 SC6 SC2で「行きたくはない」の選択者）備北丘陵公園に行ってみたく理由を教えてください。
本調査 ※SCR調査対象者からLAND層ごとに割付 L層 300人 A層 300人 N層 100人 D層 100人	国内旅行・外出等に対するニーズ傾向	Q1 旅行・外出したいと思うきっかけについて、教えてください。 Q2 旅行・外出する場合、誰と一緒に行きたいですか。また、誰と旅行・外出することが多いですか。 Q3 旅行・外出先を選ぶ上で、どのようなことを重視しますか。 Q4 旅行・外出をする場合は、どの程度の期間で行うことが多いですか。選択した理由も教えてください。 Q5 旅行・外出をする場合の、全体予算を教えてください。（一人当たり） Q6 旅行・外出先を選ぶ上で、情報源にするものをすべて教えてください。
	公園の現状・将来に対するニーズ傾向	Q7 備北丘陵公園の各エリアでは【現在のエリアの提供サービス】を提供しています。興味のあるエリア・サービスを教えてください。（※画像提示） Q8 備北丘陵公園の利活用を充実していくため、各エリアで【今後の公園への取り組みイメージ】を想定しています。興味のあるエリア・取組を教えてください。 Q9 備北丘陵公園の利活用を充実していくための新たな取組みによって、来園意欲や頻度はどの程度変化しますか。 Q10 備北丘陵公園を訪問する際にすでに立ち寄りたい場所を教えてください。 Q11 備北丘陵公園の入園料及び駐車料金について、何円程度まで支払いを許容できるか（何円以上になったら来園をためらうか）教えてください。

※本調査では、公園入園者の分布の実態に沿うように、回答者の居住地や年齢を限定した集計を行っているため、結果は参考値と位置付ける。

2-1. Webアンケート調査(2/8)-SCR調査

- SCR調査（スクリーニング調査）では、11,019人からアンケートを回収した。
- 居住地域が備北丘陵公園に近いほど、L層の割合が高く、N層の割合が低くなる。
- N層に該当する8,486人の内、97%の回答者は備北丘陵公園を認知しておらず「知らない層」に該当する。
- SCR調査対象者の内、L層/A層の300人、N層/D層の100人を対象に本調査を行った。

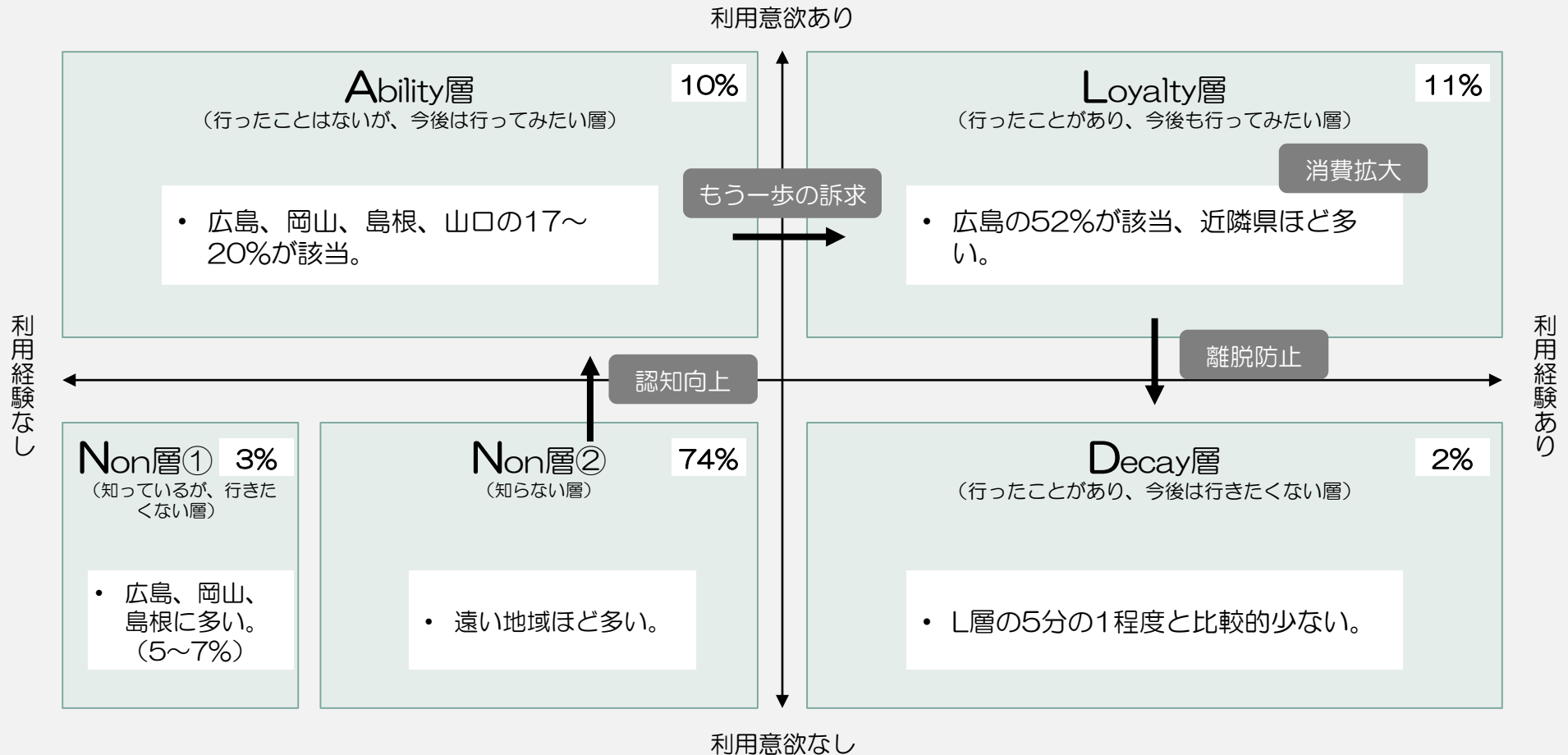
	回答者数				割合			
LAND層	L層	A層	N層	D層	L層	A層	N層	D層
公園訪問経験	あり	なし	なし	あり	あり	なし	なし	あり
公園訪問意向	あり	あり	なし	なし	あり	あり	なし	なし
広島県	682	260	275	94	52%	20%	21%	7%
岡山県	141	161	560	13	16%	18%	64%	1%
島根県	40	42	149	15	16%	17%	61%	6%
山口県	62	93	383	12	11%	17%	70%	2%
鳥取県	29	31	195	5	11%	12%	75%	2%
愛媛県	25	42	343	2	6%	10%	83%	0%
香川県	15	26	233	1	5%	9%	85%	0%
徳島県	10	12	176	1	5%	6%	88%	1%
高知県	4	10	132	3	3%	7%	89%	2%
大阪府	107	211	2,695	14	4%	7%	89%	0%
兵庫県	55	108	1,615	13	3%	6%	90%	1%
京都府	27	55	713	5	3%	7%	89%	1%
奈良県	8	31	453	2	2%	6%	92%	0%
滋賀県	13	24	323	2	4%	7%	89%	1%
和歌山県	3	21	241	3	1%	8%	90%	1%
合計	1,221	1,127	8,486	185	11%	10%	77%	2%

参考) L層：来訪経験あり/来訪意向あり、A層：来訪経験なし/来訪意向あり、N層：来訪経験なし/来訪意向なし、D層：来訪経験あり/来訪意向なし

2-1. Webアンケート調査(3/8)-各層の課題

- ▶ LAND層ごとの課題（①L層の消費拡大、②A層へのもう一步の訴求、③N層（知らない層）への認知拡大、④D層への離脱回避）を明確にする必要がある。

LAND層に対応する課題



2-1. Webアンケート調査(4/8)-L層のニーズと課題

- ▶ 20代・30代はイルミネーションを目的に来訪する人が多い。40代以上はイルミネーションに加えて花の眺望や風景、園内散策、自然観察・体験を目的に来訪する人が多い。
- ▶ 旅行・外出先を選ぶうえでは様々な観点が重視され、特に、ゆっくりできることや、食、行きやすさに着目する人が多い。
- ▶ 支払いを許容できる入園料・駐車料金は、いずれの項目も平均値・中央値とともに現行料金よりも高い金額となった。

備北丘陵公園を来訪する目的（N=300）

	合計	20代	30代	40代	50代	60代	70代
花の眺望や風景を楽しむため	119	12	7	16	23	29	32
ひばの里などで里山体験を楽しむため	24	2	5	4	5	3	5
芝生広場やアスレチックなどで遊ぶため	59	8	9	11	11	11	9
アウトドア（キャンプ・バーベキュー等）を楽しむため	42	6	6	10	9	4	7
その他スポーツアクティビティを楽しむため	33	5	8	8	8	2	2
園内で散策・寛ぐため	103	8	8	15	21	27	24
園内で開催されるイベントに参加するため	46	4	8	11	9	7	7
地域イベント（遊び体験・スポーツ等）に参加するため	37	3	7	9	11	3	4
地域イベント（マルシェ・マーケット等）に参加するため	28	5	5	5	8	2	3
自然や野鳥の観察をするため	46	4	4	9	9	12	8
自然観察・自然体験に参加するため	59	4	7	13	12	9	14
写真を撮影するため	36	6	6	6	6	5	7
イルミネーションを見るため	106	21	18	19	24	11	13
学校行事	12	1	1	2	7	0	1
その他	5	1	0	1	1	1	1
覚えていない	24	4	4	5	5	5	1

旅行・外出先を選ぶうえで重視すること（N=300）

	合計	20代	30代	40代	50代	60代	70代
コストパフォーマンスが高い	204	33	28	33	36	41	33
子どもと利用できる	117	14	23	28	25	14	13
ゆっくりできる	231	33	33	31	41	46	47
体験したことがないものがある	179	28	28	29	35	28	31
美味しいものがある	227	33	31	34	42	45	42
評価の高いものがある	171	29	25	24	32	34	27
話題になっているものがある	158	25	24	23	29	33	24
行きやすい	223	34	28	37	39	41	44
（外出先の施設等が）綺麗・清潔である	209	30	26	31	40	44	38
（外出先の施設等が）新しい	139	19	22	22	28	23	25
他の外出先と一緒に回しやすい	180	28	28	26	37	31	30
近い	146	25	21	28	32	20	20
旅行・外出のきっかけとなった欲求を満たせる	206	32	26	32	42	37	37

支払いを許容できる入園料・駐車場料金（N=300）

	現行料金	支払い許容額 （平均値）	支払い許容額 （中央値）
入園料（通常期）-大人	450円	672円	500円
入園料（通常期）-子ども	無料	309円	200円
入園料（通常期）-シルバー	210円	484円	300円
入園料（イルミネーション期間）-大人	450円	1,022円	500円
入園料（花イベント期間）-大人	450円	644円	500円
駐車料金（通常期）-普通車	350円	575円	500円
駐車料金（イルミネーション・花イベント期間）-普通車	400円	623円	500円

2-1. Webアンケート調査(5/8)-A層のニーズと課題

- ▶ 旅行・外出は、その土地ならではの体験やリフレッシュをしたいと考えることがきっかけとなることが多い。20・30代はエンターテインメントへの関心が高く新しい出会いへの関心が相対的に低い。40代以降は温泉や季節の魅力、食などへの関心が高い。
- ▶ 旅行・外出先を選ぶうえでは様々な観点が重視され、特に、食や、ゆっくりできること、行きやすさに着目する人が多い。L層とA層の間で同様の傾向がみられる。

旅行・外出のきっかけ (N=300)

		合計	20代	30代	40代	50代	60代	70代
その土地ならではの	その土地のグルメを味わいたい	214	23	28	37	46	39	41
	その土地の歴史や伝統を楽しみたい	177	20	18	35	35	28	41
	その土地の住人のように日常生活を楽しみたい	95	13	11	23	18	10	20
	その土地の景色や自然を楽しみたい	217	21	26	36	45	41	48
	まだ世に知られていない土地の魅力を発掘したい	136	12	20	27	28	19	30
	その土地の祭りやイベントに参加したい	117	17	15	23	27	16	19
アウトドア	季節の魅力を楽しまたい	209	20	23	39	44	37	46
	アウトドア・アクティビティを体験したい	130	19	17	27	26	21	20
	子供を遊ばせたい	80	9	17	17	15	9	13
リフレッシュ	温泉に入りたい・リゾートを楽しみたい	207	22	25	37	42	38	43
	日常から離れてリフレッシュするため	216	26	26	37	44	39	44
	同行者と語り合いたい	127	19	15	23	28	20	22
	思い出を作りたい	177	22	27	34	36	30	28
新しい出会い	田舎に行きたい	98	15	8	21	22	15	17
	新しい人に会いたい・現地の人と交流したい	90	13	5	15	23	14	20
	自分を見つめなおしたい	100	18	12	22	24	12	12
エンターテインメント	何かを学びたい	116	16	14	24	22	18	22
	テーマパークに行きたい	137	20	23	26	24	22	22
	エンターテインメントを楽しみたい(ライブ・イベント)	126	19	22	26	23	16	20
その他	アートを体験したい	99	18	11	20	19	13	18
	トレンドを楽しみたい	93	14	13	25	16	11	14
	他人(友人・知人含む)に共有・拡散したい	92	19	10	13	19	12	19
	ショッピングしたい	140	18	23	29	31	17	22

旅行・外出先を選ぶうえで重視すること (N=300)

	合計	20代	30代	40代	50代	60代	70代
コストパフォーマンスが高い	188	22	25	35	37	34	35
子どもと利用できる	86	11	18	21	12	11	13
ゆっくりできる	214	19	27	37	42	42	47
体験したことがないものがある	163	18	22	34	27	30	32
美味しいものがある	225	26	28	38	46	42	45
評価の高いものがある	154	23	14	30	29	29	29
話題になっているものがある	149	21	17	26	29	31	25
行きやすい	208	26	26	36	41	39	40
(外出先の施設等が) 綺麗・清潔である	195	22	26	33	38	38	38
(外出先の施設等が) 新しい	144	22	19	25	30	26	22
他の外出先と一緒に回しやすい	166	20	20	32	32	30	32
近い	142	22	18	27	26	25	24
旅行・外出のきっかけとなった欲求を満たせる	188	23	25	37	36	29	38

2-1. Webアンケート調査(6/8)-N層のニーズと課題

- ▶ N層の97%は備北丘陵公園を知らず、また、備北地域に位置する他の観光施設も知らない人が8割を超えている。A層と比較すると、備北地域の観光施設への認知度は著しく低く、公園を含む地域一体で認知度の向上を図ることが必要である。
- ▶ 旅行・外出先を選ぶ際の情報源は様々な媒体の利用が想定される。

広島県内の観光施設の来訪経験

		N層 (N=100)		
		知っているが 来訪経験なし	来訪経験あり	知らない
備北地域	備北丘陵公園	3%	0%	97%
	世羅高原農場	6%	1%	93%
	帝釈峡	16%	4%	80%
広島県内	原爆ドーム	36%	48%	16%
	厳島神社	33%	49%	18%
	広島城	31%	16%	53%
	千光寺（尾道市街）	4%	8%	88%
	生口島	12%	5%	83%
	鞆の浦	28%	11%	61%
	大和ミュージアム	26%	9%	65%
		A層 (N=300)		
		知っているが 来訪経験なし	来訪経験あり	知らない
備北地域	備北丘陵公園	100%	0%	0%
	世羅高原農場	71%	13%	16%
	帝釈峡	65%	24%	11%
広島県内	原爆ドーム	20%	79%	1%
	厳島神社	25%	73%	1%
	広島城	51%	47%	2%
	千光寺（尾道市街）	51%	38%	11%
	生口島	63%	21%	16%
	鞆の浦	59%	35%	6%
	大和ミュージアム	61%	32%	7%

旅行・外出先を選ぶ際の情報源

		N層 (N=100)	A層 (N=300)
紙媒体	観光や旅行に関する雑誌	24%	37%
	チラシ・ポスター	10%	14%
HP	観光地・宿泊地等のウェブサイト	35%	55%
	旅行代理店や旅行予約サイト	18%	37%
SNS	X (旧Twitter)	6%	14%
	Instagram	7%	19%
	YouTube	20%	27%
	TikTok	6%	7%
口コミ	友人・知人・家族からの口コミ	38%	35%
経験	過去に行ったことのあるところ	35%	27%
その他	その他	1%	3%
なし	特になし	27%	15%

2-1. Webアンケート調査(7/8)-D層のニーズと課題

- 備北丘陵公園へ行ってみたいくない理由として、「遠い・付近へ行く用事がない」ことが最も多く挙げられた。次いで、特別感が乏しいことが挙げられている。
- 地域一体で周遊観光に向けた取り組みを行い、地域に訪れる動機を創出することが必要である。

備北丘陵公園に行ってみたくない理由 (N=100)

車でしかアクセスできないから	22
遠い・付近へ行く用事がないから	39
何があるのか分からない	3
どこにあるのか分からない	5
周辺に周遊できるスポットがないから	10
体験やアクティビティが少ないから	9
飲食や物販が少ないから	2
花の眺望や風景などに魅力を感じないから	7
特別感が乏しく、わざわざ行きたいと思えないから	27
公園などの屋外の観光施設に好んでいかないから	2
人が多い・混雑しているから	7
魅力的なイベントが少ないから	11
面白くない・面白くなさそう	9
有料だから	12
よく知らないから	6
その他	4

備北丘陵公園に来訪した目的

花の眺望や風景を楽しむため	21
ひばの里などで里山体験を楽しむため	4
芝生広場やアスレチックなどで遊ぶため	24
アウトドア（キャンプ・バーベキュー等）を楽しむため	10
その他スポーツアクティビティを楽しむため	4
園内で散策・寛ぐため	19
園内で開催されるイベントに参加するため	12
地域イベント（遊び体験・スポーツ等）に参加するため	4
地域イベント（マルシェ・マーケット等）に参加するため	6
自然や野鳥の観察をするため	7
自然観察・自然体験に参加するため	6
写真を撮影するため	3
イルミネーションを見るため	16
学校行事	2
その他	5
覚えていない	18

備北丘陵公園に来訪した目的の達成度

	D層 (N=100)	L層 (N=300)	D層 (N=100)	L層 (N=300)
期待以上だった	12%	33%	・思った以上に子供が楽しんでいた、長い時間を過ごせた ・イルミネーションが素晴らしかった	・思いのほか楽しむスポットが多かった ・思った以上に広くてきれいに整備されていた
期待通りだった	39%	57%	・思っていたような感じだった ・施設がきれいで使いやすかった	・整備されており綺麗だった、広いのでゆったり出来た ・クチコミで見た通り
期待よりも低かった	30%	8%	・食事など魅力が周囲にもない ・興味が湧くものが少なかった	・夏だったので花がほとんど無かった ・特に特徴はなかった
期待よりもかなり低かった	19%	3%	・思ったほどイルミネーションがよくなかった	

参考）L層：来訪経験あり/来訪意向あり、A層：来訪経験なし/来訪意向あり、N層：来訪経験なし/来訪意向なし、D層（Decay層）：来訪経験あり/来訪意向なし

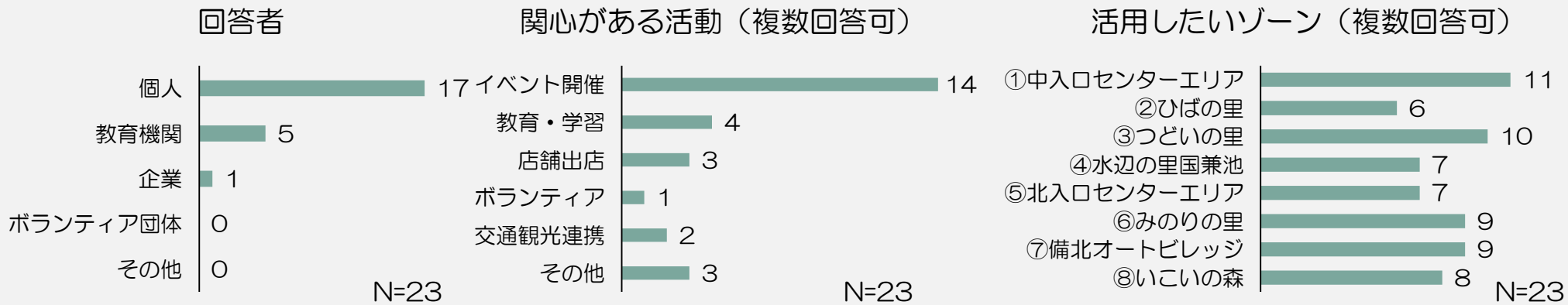
2-1. Webアンケート調査(8/8)-今後の取組方針

- ▶ 各ゾーンにおける今後の提供サービスのイメージに対して、いずれのゾーンについてもL層・A層の過半以上が「とても興味(関心)がある」あるいは「やや興味(関心)がある」と回答があった。他方、N層、D層からの関心は相対的には低く、認知の向上などを通して関心を想起させることが必要である。

	現状	今後の提供サービスのイメージ	「とても興味(関心)がある」、「やや興味(関心)がある」と回答した割合			
			L層	A層	N層	D層
①中入口センターエリア	・公園利用の案内所、飲食、物販施設がある ・花の広場では、季節毎の花風景や冬季のイルミネーションを楽しめる	・花・イルミネーションのグレードアップ、撮影スポットの拡充 ・飲食・物販施設のグレードアップ ・備北グルメ・グッズの提供	78%	71%	30%	31%
②ひばの里	・公園の中心施設として、中国山地の暮らしと懐かしいふるさとを体験できるエリア ・豪農の家を再現した「さとやま屋敷」を開放	・一日里山生活(たたら鉄づくりや、農作業、やきものづくり、神楽殿での儀式体験のパッケージ化) ・「さとやま屋敷」への宿泊、食事体験	69%	69%	29%	22%
③つどいの里	・本格的グラウンドゴルフコース、芝生広場、大型複合遊具など、林間のスポーツ・レクリエーションやイベント、遊びの場として人々が集う	・各種イベントの誘致 ・フットゴルフ、モルック、ウィッフルボールなどあらゆる人が参加できる新しいスポーツ等の体験	64%	59%	28%	17%
④水辺の里 国兼池	・県内最大のため池で、地域の農業用水源となり、利用者に安らぎを与える水辺空間としてのエリア	・ゆっくりできる景観を生かした写真撮影スポットの整備 ・初心者が気軽に参加できるカヤック、SAP、釣り体験ツアーの定期開催	72%	67%	32%	21%
⑤北入口センターエリア	・本公園の入口で、エントランスセンター国兼等、利用の案内所、飲食、物販施設がある	・地域の魅力を伝えるスポット、備北グルメ・グッズの提供 ・全天候型遊戯室の整備(雨でも子どもが遊べるスポット)	65%	64%	25%	27%
⑥みのりの里	・季節を彩る花や果実の景観を楽しめるエリア。スイセンガーデンやピクニック広場がある	・花撮影スポットの整備 ・グランピング施設拡充	76%	72%	29%	22%
⑦備北オートビレッジ	・本公園の野外宿泊利用の拠点となるキャンプ場やコテージ等があり、アウトドアライフを体験することができる	・手ぶらで気軽にキャンプが楽しめる施設に変更(施設の改修・グレードアップ) ・独立したキャンプサイトの設置	59%	58%	23%	22%
⑧いこいの森	・公園内で最も起伏に富んだ地形 ・豊かな自然を残して整備されたエリア ・夏にはカブトムシと触れあえるエリア	・産官学連携やガイドによる自然・森林体験ツアーの実施 ・トレイルランニング/オリエンテーリングスポーツの大会の開催	67%	66%	30%	21%

2-2. 公園活用者向けアンケート調査

- ▶ 公園に関わる多様なプレイヤーの掘り起こし、管理運営ビジョンなどへの意見の反映を目的に、活動アイデアを募集するアンケート調査を実施した。公園の活動に関心がある民間事業者・団体など（イベント、店舗出店、交通・観光、教育学習、ボランティア）を対象者として設定した。
- ▶ 23回答があり、イベント開催や店舗出店に関するアイデアが見られた。



主な活動アイデア

イベント開催

- ・山岳テントのライトアップ（テントを芝生広場に設営しランプ設置。アウトドアメーカーと共催しアウトドアの普及啓発）
- ・婚活イベント
- ・野外音楽フェス、野外ステージでの発表・バザー
- ・手入れを通じた技術の習得
- ・写真撮影イベント（アニメなどの世界を投影した板を設置し、コスプレイヤーが撮影できるような場所を提供）
- ・オリエンテーリング大会、なわとび大会、雨天時の外遊び
- ・キャンプ、しめ縄を使ったクイズ×アクティビティ
- ・親子料理教室、お茶会など

観光連携

- ・COOL JAPAN サミット（周辺地域の日本の伝統文化やサブカルなどのPR、体験などができる機会を設定。地元の方や日本人旅行者向け企画も併せて用意）
- ・位置情報を使ったスマホゲームの限定会場
- ・公園内の伝統文化の体験をSNS発信など

店舗・他

- ・メダカの販売
- ・個人で作ったアート作品販売
- ・募金活動
- ・ドローン間伐の実験など

2-3. 関係機関協議

- 公園と連携を行っている観光団体や行政管掌課と公園を取り巻く環境や地域における位置づけ、今後の展望について議論を行った。
- 地域ならではの資源を活用し、アクティビティや宿、食を組み合わせることで消費を促し、公園が地域の文化拠点となることが期待されている。

調査内容

- 公園を取り巻く環境と地域における公園の位置づけ
- 今後の展望

結果概要

〈地域の現状と将来像〉

- 地域ならではの資源を打ち出すことが重要である。ひばの里は様々な取組の潜在性を持つ。
- 非日常体験や田舎に行きたいニーズが増えた印象である。コロナ禍後は日本全国各地が競合となっており、施策の検討が必要と考える。

〈公園の現状と将来像〉

- 目的を持ったイベントは集客力が高い。公園は高速道路のICから近く、中国地方の中央に位置しているため、ポテンシャルは高い。
- ひばの里では備北地域の昔ながらの暮らしが再現されており、地域の自然から生まれた営みなど継承すべき内容も含まれるため地域の文化の拠点にしたい。

〈地域連携〉

- インバウンドの営業でも庄原単体では難しく、地域連携は必須と考える。